

517
280

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{19/m} 1 2 3 4 5

始





シム ベリン

坪内逍遙

大譯
12.6
内交

CYMBELINE.

Act III. Sc. 4.

Imogen. Come, fellow, be thou honest:
Do thou thy masters' bidding: When thou see'st him
A little bitness my obedience: Look!
I draw the sword myself: take it; and hit
The innocent mansion of my love, my heart:
Fear not; 'tis empty of all things but grief:
Thy master is not there; who was, indeed
The riches of it: Do his bidding; strike.
Thou mayst be valiant in a better cause,
But now thou seem'st a coward.

I is. Hence, vile instrument!
Thou shalt not damn my hand.

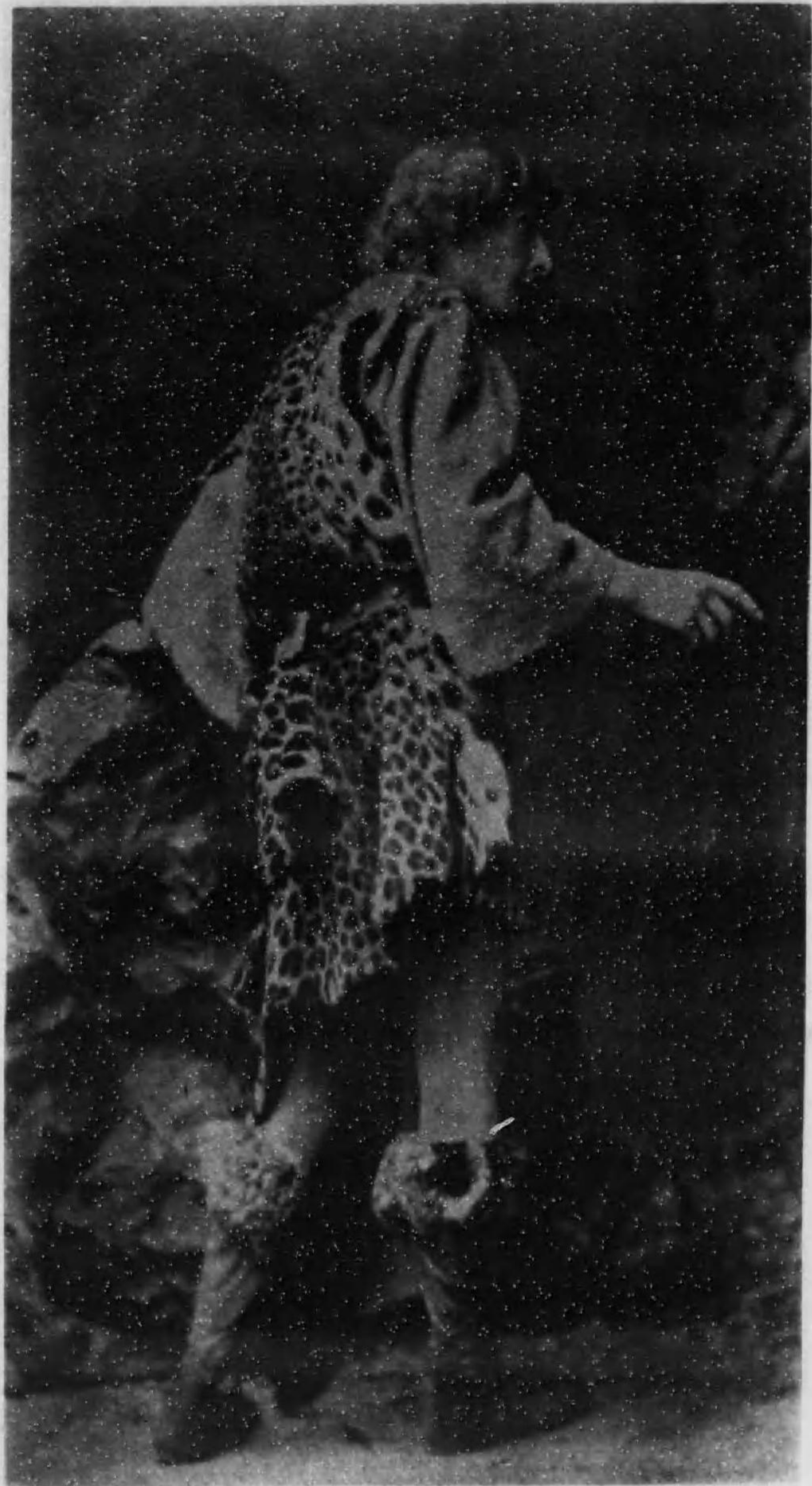
Imo. Why, I must die;
And if I do not by thy hand, thou art
No servant of thy master's: Against self-slaughter
There is a prohibition so divine
That cravens my weak hand. Come, here's my heart;
Something's afore't;—Soft, soft; We'll no defence;
Obedient as the scabbard.

Printed by John Hopper, R. A. Engraved by Robert Ties.



Miss Ellen Terry as Imogen in "Cymbeline"

Window & Grove, Photo

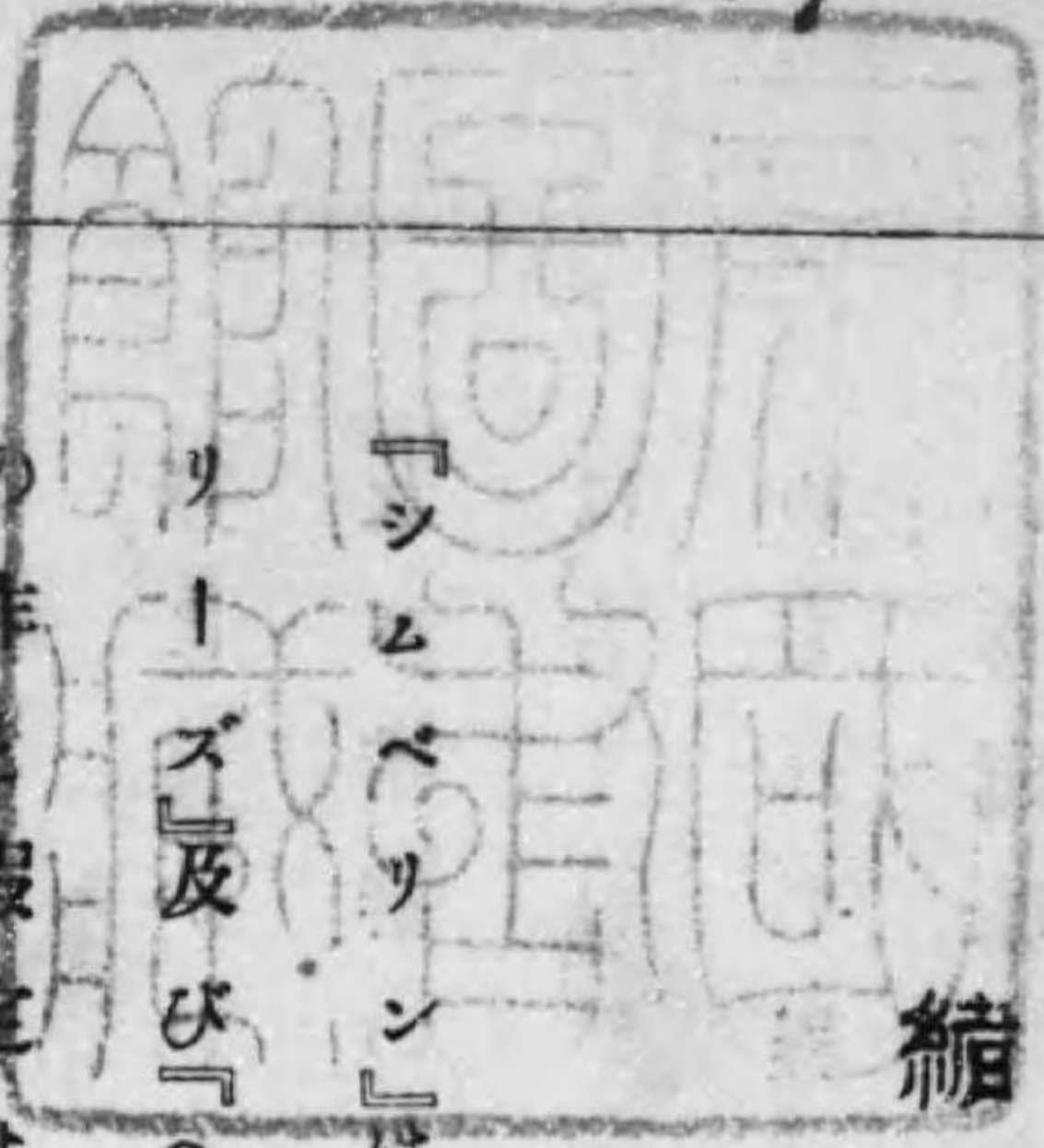


Mr. Gordon Craig as Arviragus in "Cymbeline"

Window & Grove, Plot

577-280

578.77



縮

言

『テムペスト』は、通例、『テムペスト』、『冬の夜ばなし』、『ペリク
 リトズ』及び『ヘンリー八世』と共に、シェークスピアが最晩年
 の作と假定せらる。此うち、最後の一作を除くのを他をコ
 ーブルリッチは嘗てロマンチック・ドラマと特稱せり。ロマン
 ス——歐洲中古小説——風の劇即ち傳奇劇の謂ひなり。此
 分類は當を得たるに幾し。何となれば、シェークスピアの

緒言

諸作は、嚴密にいへば、いづれも多少ロマンス風の劇ならざるはなしと雖も、前掲四作に至りては、特にしか名づけらるべき種々の條件を具備したり。先づ、其題材及び其取扱ひ方に於て、他の喜劇、悲劇、史劇と異なり、又かの青年期に書かれたる『眞夏の夜の夢』の如き空想劇とも其構想及び措辭の上に相違あり。就中この『シムベリン』の如きは、古くは「めでたく結局する悲劇」と呼ばれて、悲劇中に收められし程にて、其大團圓に達するまでの徑路には何等の喜劇味もなく、其事件も人物も『テムペスト』のそれらよりも、『冬の夜ばなし』のそれらよりも悲劇的なり。而も

尙筋立にも、性格の描寫にも一種の「遊び」ありて、到底『マクベス』、『リヤ』乃至『オセロー』などに於て見る如き緊張もなく、深刻味もなく、力もなし。また作の背景となれる事件及び主なる人名の二三を古英國の史實より借り來りながら、其劇的内容は寧ろ傳説、童話に類し、聊かも史劇らしき所なく、ひとへに其奇に駭かしむる意表の事件の連続と目ざましく興味多き畫的情景の對照とを主眼となして、舞臺效果に重きを置き、趣向の荒唐無稽に流るゝをも性格に多少の矛盾を生ずるをも敢て厭はざるが如き脚色鹽梅は頗るわが淨瑠璃、歌舞伎、草双紙のそれに似たり。

そもく、泰西の劇は、古希臘のそれより中古以後現在のそれに至るまで、いづれもわが歌舞伎劇などとは其内容をも形式をも異にし、全く別系統に屬するものたることは夙に知られたる事實なれども、ひとり中世末の英西二國の劇のみが多少其異例とも見らるべきが中に、最もわれのに似たるはエリザ朝に於ける或作、例へば、キッドの諸作、次にシェイクスピアの或作及び彼れが死後の或作家ら、例へば、ポーモント、フレッチャー、マッシンジャーらの作なり。而して此類似は單なる偶然に外ならざるにや、或は何等か然らざるべからざる理由あるにや、そは尙未穿鑿に屬す

と雖も、とにかくかゝる事實の存在する以上、其一標本とも見做すべき本篇の如きは、苟も完全にシェイクスピアを知らんとする者の見逃すべからざるものたると同時に、演劇進化の理を考察せんとする者の恰好資料の一たるや明かなり。

『シムベリン』は一六二三年に例の二折本中に收められて公けにせられし以前には、曾て印刷に附せられしことなく、随つて其創作年代も明かならず。此作に關する最も古き記録は星學者博士サイモン・フォマンといふ者の

一六二一年より一六一一年に至る『観劇覚え書』(“Book of Plays and Notes Thereon”) 中に見えたるものなり。彼れは一六一〇年の四月に『マクベス』を、また其翌年の五月に『冬の夜ばなし』を観しことを自記し、且つ此作をも同じ地球座にて觀し由を録せり。但し其年月を明記しをらず。しかしながら彼れは一六一一年の九月に死したれば『シムベリン』を観たるはそれよりも前なることは明かなり。且つ彼れが此作の筋書を珍らしげに其覚え書中に書き記しをれるより察すれば、其頃はじめて上演せられたる書きおろしの作なりしが如し。尙また其措辭、構想の特色より

見るも、或は其作意に隠然たる一種の老熟せる人生觀などより見るも、或は既にいへるロマンス風の脚色鹽梅より見るも、此作は作者の最晩年に屬せしむべきものなるが如し。故に其創作年代を、今は——フリー及びイングルビー二家の異説あるにも拘らず——一六〇九年よりは早からず、一六一一年よりは晚からずとするを通論とす。

此作の粗材は、一部は例のホリンシェッドの英國古代史の事蹟にして、他の主要部は伊のボカチオの『十日物語』の第二日の第九話なり。かの獨のお伽話『スノウ・ホワイト』の

哀れなる物語の如きも、おそらく作者が藥籠中の物なりしならんといふ。すなはち、其繼母に憎まれて毒殺されんとすること、洞穴に隠れ家を求めて七人の深切なる矮魔にいたはらるゝこと、竟に病ひを得て、眠るが如く死し、心なき鳥類にだに哀悼さるゝことなど、本篇の女主人公の運命に酷似せり。このお伽話は其頃既に廣く英國內に流布しをれりきといふ。

以上の三粗材のうち、ホリンシエッドよりは、作者は、主として作の題名と、其背景とも樞軸ともなれる主要事件とを招採せり。すなはちシムベリン又キムベリンは古代の

英國——ブリタイン——に君臨したりし一王の名なり。正史に據れば、羅馬の英雄ジュリヤス・シーザーがブリタインを征略せし其少し以前に該國に王たりし者にラッドといふがあり。ラヅタウン *Lut'stown* 即ち後のロンドン *London* を開拓せしは彼れなるべし。ラッド死して其弟カッシベリン繼ぎ、カッシベラン死して其甥シオマンシヤス(此劇にてはテナンシヤス)繼ぎしが、彼れ死するに及びて(紀元後三三年に)其子シムベリン繼ぎて、三十五年間君臨せり。シムベリンの事は、古正史にては、キムベリナス *Cunobelinus* とも呼べりといふ。

此劇にては、羅馬帝オーガスタス（ジュリヤス・シーザーの後繼者）が使節を送りてシムベリンが納貢を怠れるを詰責し、それが主因となりて羅馬とブリタインとが相戦ふに至れるやうになりをれるが、ホリンシエッドによれば、シムベリンは必ずしも羅馬に納貢の義務を有せざりし如し。而も彼れは敢て納貢を怠ることをせざりしかば、其一代を通じて曾て羅馬と葛藤を生ぜしことなかりき。再び羅馬と干戈を交へしは其長子ギデリヤスの世なりといふ。されば此劇に見ゆる羅馬軍の來寇は作者の假設に外ならず。アーギレーガスといふ王子の名もホリンシエ

ドに見えたり。但し此兄弟の王子が其臣下の爲に誘拐せられて、山間の洞窟内に原始人めく生活を送れることは、奸譎にして残忍なる王妃及び其子たる愚にして卑しむべきクロトテンに關する諸件と共に、同じく作者が空想の産物たり。次に、かの老勇士ベラリヤスが其誘拐して子となせる二王子と共に、一狹路を要して羅馬兵を防ぎ戦ふに當り、紳士ポスチューマスが農夫に假裝して之に参加し、四人協力して竟に敵軍を撃退し、ブリタインの危急を救ふの一條の如きも、これ將たホリンシエッドに據りどころあり。されどそはデンマルク人が來寇せし際の事

蹟にして、其主動者は其名をヘイといへる一農夫なり、而して、共に働きしは其二人の實子なりき。處はスコットランドの一狹路にして、全く別時代の事に屬す。

シェークスピアは『十日物語』を其原書にて讀みしや、或は譯書にて讀みしや、詳かならず。該書の全き英譯は、一六二〇年以前にはなかりしが、其部分譯は一五二八年頃よりありしのみか、尙其後にも數種ありきといふ。左に、參照の爲に、ボカチオの原話の梗概を記す。

伊太利商人の一團が佛蘭西パリの一旅館に會合しける時、ある夕食の後、家に殘しおける妻の貞操を問題となして、めい／＼相論議せ

り。其うち三人はさほど其妻を信ぜざりしが、セノアのベルネード *Pavolo Lonellini* は、わが妻(其名はジネウラ *Ginevra*)のみは、如何に久しく留守居させおくも、決して不貞の振舞などをする女にあらずと主張せり。之を傍聽せしピヤチェンザの一人人アマプロギオロ *Ambrugiolo* といふ者これを冷嘲し、予は從來如何なる女をも手に入れ得たり、只之に接近するの便宜をだに與へられなば、足下の妻女の如きも同様に扱はんといふ。ベルネードは大いに激して、二三問答の末、竟にアマプロギオロの五千圓に對して一千圓を賭け、誓約書を取交すこととなり、アマプロギオロはセノアへ向け出發せり。かくてそこに到着するや否や、ジネウラの品行を探りて、其淑徳の堅固なるを知りて、一旦は失望せしが、其傍仕への或貧女に贈賄して、大箱の中に潜みつゝ、巧みなる口實の下にジネウラの寢室内に運び入れられ、其夜半、ジネウラの熟睡せるを俟ちて、箱より出で、仔細に室内の模様を觀察せり。就中ジネウラが左の乳首に一の黒子ありて、其周圍に金色の柔

毛あることも見窮めたり。さて、尙そこに在りし手箱より指輪、腰帶、其他の品々をも窃取して、再び大箱へ戻りて潛み、第三夜に、貧女をして無事に大箱を室外へ持出さしめて其勢に報い、直ちに故國へと急行せり。かくてパリーに著するや、やがてベルネードーをはじめ關係者一同を集會せしめて、難なく目的を達したるらしく高言し、其證據として其視察せし詳細を縷述せり。最初は信じかれたりしベルネードーも、黒子の事を聞くに及びて、心臓を突き貫かれし思ひして、われ賭に負けたりと自白し、約の如くに一千圓を支拂ひ、すぐさまセノアへと志し、該市を離るゝと數十哩なる其別墅に留りて、そこより一書を其妻に送りて、おのれを來り見んことを命ずると同時に、其使ひの僕をして途上にて女を殺さしめんとせり。ジネウラは斯くとも知らず、僕より其書を得るや、喜び勇みて、騎馬にて別墅へと急げり。さて程よき處まで來りし時、僕はジネウラを抑留して、主命を傳へ、故は知らされども、殺さざるを得ずといふ。ジネウラ之を聽きて、流涕

し、懇ろに其冤を訴へ、汝罪なきわれを害せんより、わが著たる此服を取りて歸り、われを殺したりと偽りて主に告げんこそ却りて神慮に叶ふべけれ。而してわれには汝の著たる其服と帽とを與へよ、われは男装して、遠き地方に姿を隠さんといふ。よりて、僕は其命の如くにせり。すなはち立歸りて、其主に、死骸は狼群中に遺棄し來れりと偽り告げぬ。かくて後、ジネウラはファイナレ *Sieurano de Finale* と假名し、變成男子となり、海濱に赴きて、あるカタロニヤの紳士に仕へ、次いでアレキサンドリヤに航行し、そこにて國王の目にとまりて其侍童となりしが、寵遇日に加はりて立身し、警衛兵の將官に任ぜられ、商人共を保護せんために、エーケルに於ける商市に派遣されぬ。折から、アマプロギオロも其商品を携へて其市に來會せしが、其商品中に彼れが嘗てジネウラより窃取せりし種々の品物も混りぬたり。其傳來をファイナレのジネウラが、さりげなく尋問するや、アマプロギオロは、こはすべてわが情婦の贈り物なりと得意げに高言し、且つベルネードー

との賭の次第をも語りぬ。ジネウラは之によりて、總てがアムプロギオロの奸計に由来せしを悟り、國王サルタンに訴へて彼れを嚴罰せしめんと決心せり。すなはちわざと好意を示して、アムプロギオロをアレキサンドリヤへ伴ひ歸ることなし、同時にセノアより來れる或商人らを使ひてベルネードーをも同じ都へ誘引せり。かくてアムプロギオロとベルネードーとは、共にアレキサンドリヤにて、サルタンの前へ引き出され、嚴しき詰問を受け、竟に二人ながら其舊罪を白状せり。其時、フィナレのジネウラはサルタンに乞へらく、若し欺騙者をば嚴罰し、粗忽者をば寛恕せられなば、第三者たる女をば即刻此場へ呼び出ださんと。サルタンの此乞ひを許すや、彼女はすなはち其本體を現はせり。こゝに於てアムプロギオロは死刑に處せられ、ジネウラとベルネードーとは大いなる幸ひと大いなる富みとを得て、故國セノアに歸り去りの。

以上の材源調べによりて、既にほゞ豫知せらるべきが如く、此劇を組み立つる大筋は四あり、一は羅馬對ブリテインの歴史的葛藤にして、王シムベリンは之が主役たり。二は王妃對イモーゼン姫の童話的葛藤にして、イモーゼンは其主役たり。三はイモーゼン、ポスチューマス、ヤキモ一の三角的關係もしくは葛藤と稱すべきものにして、是れ將たイモーゼンを主役と見るを當れりとす。四は王シムベリン對其臣ベラリヤスの葛藤にして、其主役は、理としてはベラリヤスたるべきなれども、舞臺上にては、むしろ二王子が活躍す。而して此挿話エピソードに於てもイモーゼ

ンの役は相應に重きをなせれば、全篇を通じての主役即ち主人公は此役と見て當然なるが如し。随つて作者の努力は最も多く此性格の描寫に費されたるらしく、サア・ヘンリー・アーギングの如きは、之を舞臺効果の上より觀て、若し此劇よりイモーゼンを除き去らば、剩す所は物にならずといひ、他の文學的にシェークスピアの女性を論ずる者もまた、異口同音にイモーゼンの性格の圓滿を讚美し、或は之を以て作者自身の理想の女性ならんと解するものあり。とにかく、此劇の感興の中心がイモーゼンに在ることは明かなり。

既に前にも一言せる如く、此作は主として舞臺效果に重きを置きて作られたるが爲か、布置結構の老巧、措辭の精練、文藻の富麗等は如何にも大作家の最晩年の作品たるに恥ぢずと思はれながら、童話風、草双紙風に綴られたる其筋立は、時に餘りに不自然にして、今日の心には受け入れかぬもの多し。例へば、男女とも一たび巧みに變装すれば、深く相愛せる者すら、もしくははきのふまで親昵せる者だに、絶対に其人を認識する能はざるが如き、或は相手方の片言を輕信して、其最愛の妻を殺さしめんとするが如き、其不自然なる例の一二なり。其他なほあるべ

し。人物の言動にも、時に多少の矛盾あり。ヤキモーが其改悛後に語る賭事以前の事情が前の幕の實際とそぐはざるが如きは其一例にして、王妃が苦心して手に入れたる毒藥を前の幕にて小匣ぐるみ僕ビザニオに附與したるに、後の幕に至りて、尙其幾分かを保存しゐたるらしく解せらるゝ如きは其二例なり。或は、ボスチューマスが夢の裡に、其父母骨肉の亡靈及びジュピター神を唐突に出現せしむる趣向の如き、マスクばやりの時の好尙に餘儀なくせられたるが爲ならめど、此作者としては、餘りに不細工に過ぎたり。且つ其詞句の如きも、其最晩年の筆と

は信じがたき程に平凡もしくは拙劣にして、現に或批評家らが此一節だけは、他作家の筆に成れるものならんと推論せし程に、何等の詩的價值をも有せず。或は、王妃やヤキモーやボスチューマスの性格なども、恐らく精嚴なる心理的分析には堪へ得ざるべし。何となれば、彼等は、要するに、ロマンス劇——即ち淨瑠璃、歌舞伎——中の傀儡的人物たるに外ならざればなり。

以上は、然れども、劇の第一義を合理又は自然又は如實に在りとするの立場より觀たる是非論なり。若し其批評の規準を、時あつて空想に、超自然に、非現實に求め得べ

きものとするれば——また時代思想の推移によつて、後世には非合理、不自然とのみ解せらるゝことも、其當時には、既に多年信受し來れる傳説たるが爲に、さしも見做されざることありきとするれば——前に非とせられたるもの、或は却つて是となり、或は必ずしも非ならざるを得べき理なり。是れ理智、常識を萬能視せし十八世紀の批評家ドクター・ジョンソンが此作を貶評し、ロマンチズム全盛期のシュレーゲルが之を激賞せし所以なるべし。近くばスキンプアン、ダウデンらもまた此作を推賞せり。按ふに、その然る所以の理は、多く之を辯ぜずとも、試みに之を他の

類似の諸作、シェイクスピアが周圍の諸作家のそれ、もしくはわが淨瑠璃、歌舞伎の名作に比せば、おのづから明かならん。これは所謂大醇にして小疵なるもの、他は概して大疵にして小醇なるものなり。

『シムベリン』の實演史實はフォオマンが『覚え書』に見えたるを最古となせるよしは、既に上にいへる如くなるが、其後一百五十年間は此作の上場に關する何等の記録もあらず。最も早き其復演^{リワイヴル}は一七四四年にして、時の名優シオフィラス・シッパーが監督の下にヘーマーケット劇場^{キヤパ}にて行

はれき。但し此際使用せられし脚本は、其以前、一六八二年にデーヴナントによりてドルーリー・レーンなる王立^{シヤター!}劇場にて上場せられし『王女の毀害、又の名、不祥なる賭事』*Injured Princes or the Fatal wager*にしてシエークスビヤの原作ならざりしこと、證ありて、明かなり。『不祥なる賭事』はダアフィー *D. Uffel* といふ凡作家がかの三角的關係に關する筋だけを引離して其人物の名をも、筋立をも、詞句をもほしいまゝに改作せしものなり。尙此改作は一七二〇年にも又一七三八年にも上場せられしことありきといふ。

一七五九年に至りて、ユゼント・ガーデンの劇場にて、ウィ

リヤム・ホーキンスの改作に係る他の『シムベリン』上演せられき。こは、例の三一^{スリーユニチス}一致の劇則に當嵌めて書かれしものといふ。次は一七六一年のドルーリー・レーンに於けるガトリックの復演なり。是れ將た原作其まゝにてはなかりしが、改作者が名優ガトリック自らなりしだけに、前々の改作とは異なり、只僅かに若干の添削と轉換とを施ししに過ぎざりきといふ。ガトリックはボスチューマスの役を勤め、ホランドはヤキモートを、ブライド嬢はイモーゼンを勤めき。それより以後、次第に原作に近きもしくは殆ど原作そのまゝといふ臺帳が採用せらるゝに至りたり。

既に前にもいひたるが、此劇の主役は女主人公イモーゼンにして、これに次ぐ者はボスチューマスとヤキモーなり。就中イモーゼンの役は十八世紀以來常に名ある女優のアムピシヨンの標的となれり。ジョン・ケムブルが一七八五年のボスチューマスに對しては、ジョオダン夫人がイモーゼンを勤め、一七八七年の同じ人の上演に際しては、かのシッドンス夫人が此役に扮し、またマクリデーがボスチューマスを勤めし頃にはエレン・ツリー或はヘレン・フォーシットがイモーゼンを勤めたりき。エレン・テリー如きもアイギングのヤキモーに對して此役に扮し、褒貶相半の評

を得たり。米國の名優にてはネイルソン、モヂェスカ、マローら皆此役によりて其名を知らる。されど之によりて「最大の當り」*greatest triumph*を博せしは一八三七年に其初役を演じて以來之を其終生の得意藝となせりしヘレン・フォーシット(又の名レーディー・マーチン)なりきと傳説せらる。

登場人名

シムベリン、ブリテイン王。

クローテン、妃の先夫の子。

ボスチューマス、リオネータス、紳士、イモーゼンの夫。

ベラリヤス、追放された貴族、身を窶してモオガンと假稱

してゐる。

ギデリヤス、シムベリン王の子、ベラリヤスのモオガンに

アーギレーガス、養育されて、山間に人となり、前者はボリド

ニア、後者はカドラルと假稱され、モオガンを實父だと思つてゐる。

フィラリオ、伊太利人、ボスチューマスの友人。

ヤキモ、同前、フィラリオの友人。

ケイヤスルーシヤス、羅馬軍の大將。

ピザニオ、ボスチューマスの家來。

コオネリヤス、侍醫。

一羅馬將校。

ニブリテイン將校。

一佛蘭西人、フィラリオの友人。

二人の貴族、シムベリンの宮中に仕へてゐる者。
二人の紳士、同前。
二人の獄吏。

妃、シムベリンの後妻。

イモーゼン、先妃の生んだシムベリンの女。

ヘレン、イモーゼンの侍女。

其他、貴族ら、宮女ら、羅馬の元老ら、保民官ら、一豫言者(占者)、一和蘭駄人、一西班牙人、樂人ら、役人ら、將校ら、兵士ら、

登場人名

使者役ら、侍者ら。
亡霊及び神靈。

場所
ブリテイン及び羅馬。

※
※
※
※
※
※
※
※

シムベリン

第一幕

第一場

ブリテイン シムベリン王の
宮中の庭園

二人の紳士役の者出る。

紳一
ねえ、君一人だつて擧ッ面をしてゐない人間
はゐないだらう。こちとらの氣質は天體の
御意のまゝだとかいふが、廷臣たちが王の御



第一幕 第一場

意のまゝの面附をするのはそれ以上だ。

一體どうしたといふのだね？

お後嗣のお姫さんが：王がつい此間お迎へになつたあの後家さんのお妃の一人息子にと企圖んでおいでになつたお姫さんが：貧乏な、けれども立派な或紳士に身を任せて、結婚しておしまひなすつたので、其紳士は追放、お姫さんは禁錮。で、表面だけは一同が御愁傷の體だ。もつとも王だけは眞物だと思ふがね。

ちや、歎いてるのは王だけかい？

あの、お姫さんを貰ひそこなつた男も歎いてるよ。それからお妃もね、其結婚を非常に希望してをられたんだからね。けれども廷臣連は：王の顔附を眞似て顰ッ面はしてゐるけれども：一人だつて内々喜んでゐないものはないよ。

紳一
紳二

紳一
紳二

なぜだい？

お姫さんを貰ひそこなつた男は、わる口にもいひきれない程の劣者だが、手に入れた男：といふのはお姫さんの情人：ありやア立派な男だ。だから追放されたんだ。世界中を搜したつて、またとあの通りな男はゐまい、比べて見りや、きつと何かしら缺けたところがあるだらうて。外貌も、内心も、あんな立派な男は、つひぞまだ見たことがない。

大げさにほめたね。

なアに、極内端にいつてるんだよ。尺のありつたけを擴げたのぢやなくつて、寧ろ引き絞つて見せてるんだよ。

名は何といふのだい？ 血統は？

まだ大根の穿鑿は行届いてゐないが、親父さんはシ、リヤスといつて、カッシベラン王に一味して羅馬人（ジュリヤス）と戦つた人ださうな。が、勳

紳一
紳二

紳一
紳二

爵を貰つたのはテナンシヤス王(カツシペランの甥)からだといふとだ。其テナンシヤス王に仕へて、大分功績があつたので、獅子兒(リオネータス)といふ綽號を得て、問題のあの紳士の外に、もう二人男の兒があつたが、二人とも其頃の戦争で討死をしたさうな。で、其時分もう年をとつて子煩悩であつた親父のシ、リヤスは悲んで死ぬ、問題の紳士を懐胎んでゐた其妻女も、生み産すと共になくなつてしまつたので、王が其赤んぼを引取つて、ボスチューマス・リオネータスと(獅子兒の)形見子)名を附けて養育し、御寢所附といふことにして、其頃の、與へ得られる限りの、あらゆる學問をおさせなすつた。それをまたあの男が、われ／＼が空気を吸ふやうに、せつせと吸収して、春の盛りにもう收獲といふ上達をして、しよつちう宮中で暮して……こりや全く稀れなこつたが……此上もなく讚められ、此上もなく可愛がられ、幼い者には手本となり、中年者には身だしなみの鏡となり、ぼけかゝつた老人連には、

紳二

子に代る介抱役となり、又お姫さんには……そのために今度追放になつたんだが……お姫さんがあのお身分に代へてまでもと慕ひなすつたのによつても、あの仁がどんな人間かといふことは解るだらう。

紳一

君のその報告を聞いたゞけでも尊敬の念は起るよ。だがね、君、一體、あのお姫さんは、王のお一人子かね？

紳二

あゝ、お一人子だよ。もとは王子さんが二人あつた。聞く氣なら話さうが、其お兄さんの方が三歳、弟さんがまだ襁褓の中といふ頃に、育児室から盗まれて、けふが日まで、まるつきり行くへが知れない。

紳一

そりやいつごろの事だい？

紳二

約二十年前のことだ。

をかしいねえ、一國の王子たちが、護つてる者もあつたらうに、そんな風によつたり盗まれるなんて？ おまけに、搜索が行届かなくつて、今以て行

くへが解らんなんざア!

紳一 不思議であらうと、馬鹿らしからうと、とにかく事實なんだよ。

紳二 本當だらうとは思ふがね。

紳一 (制して)もう止さう。(一方を見て)今噂した紳士とお妃とお姫さんが見えた。

二人入る。

妃とおスチューマスとイモーセン姫と出る。

妃 いゝえ、むすめ、わたしは決して、世間でわる口をいひ觸らすやうな繼母根

性は持つてゐません。あなたはわたしの囚人です、けれども此牢守は押込

めておく爲の鍵を斯うしてあなたに手渡します。……それから、ボスチュー

マスどの、わたしは、王のお怒りを和め得さへすれば、必ずあなたの辯護を

しますよ。けれども今は何分にもお腹立の火の手が強いから、よく分別

して、じつところへて、おいひわたしの通りになさるのがいゝでせう。

ボス はい、今日すぐに立退きます。

妃 (二人へ思ひ入れをして) 危険は承知でせうね。わたしは少しの間此園の内を

歩いてゐませう、仲を堰かれた苦しさを察しますから、……王はあなた

ちに話をさせてはならないとお吩咐になつただけれど。

妃入る。

イモー (見送つて)まア、そらくしい深切ぶり! 撫で擦る手で深創を負はせる暴

君どのの口前のうまさ!……(ボスチューマスに)いとしいくわが夫、父が腹

を立つてゐますので、わたし怖ろしいやうな氣がします、けれども些とも

恐れはしません……決して父を侮るわけではないのですけれど、……わた

しがどんな目に逢はうとも、それは少しも恐れません。あなたはどうし

てもお行きにならないければならんです。わたしは後に残つて、これか

らは毎日々々、あの腹立たしげな怖い目に射られて暮らすのです、いつか

又(ポスユチーマスに縋りつゝ)此、世界の寶玉を見ることが出来るといふ樂みの外には、浮世の慰めは何にもなくなつて。

縋つて泣く。

ポス
わたしの女王！ わたしの戀人！ おゝお姫さん、もう泣いて下さるな。つい、わたしまで悲しくなつて、男らしくもないといはれさうですから。わたしはきつと約束を守ります、未だ曾てこんな忠實な夫はなかつたといはれるほどに。これから、父の友人であつた。書面で知つてゐるばかりの男ですが、羅馬のフィラリオといふ者の宅に寄寓します。そこへあて、手紙を下さい。さうすりや、たとひあなたがあの苦い五倍子の液で字を書いておよこしであらうとも、わたしはそれを此目で以て一字も残さず飲込んでしまひますから。

妃又出る。

妃
ね、早くなさいよ。若し王がお出でになると、わたしはどんなに御不興を蒙るか知れませんか。(傍白)といつておいて、王をこつちへ連れて來ませう。どんな不埒をして見せても、いつでも王の方から折れて出て、大損をして、さうしてわたしと仲直りをするのが定例だ。

妃又入る。

ポス
(イモーゼンに)壽命のある限り、別れを惜んでゐたつて、やつぱり別れともなさが募るばかりだ。……さやうなら！

イモ
いゝえ、もう少し待つて下さい。……ほんの散歩のために一寸外出なさうといふ時だつて、こんな風にして別れてはあんまりです。……これを。(と指輪を見せて)ねえ、御覽なさいね。此ダイヤモンドはお母さんのでした。ねえ、これを持つてつて下さい。けれどもなくしないでね、イモーゼンが死んで、二度目の奥さんをお迎へになる時までね。

ボス

えッ！ どうして！ 二度目の妻を！（天を仰いで）お、天の神々よ、只此妻をのみわれに與へたまへ、若しも第二の妻を抱くやうなら、死の紐を以て此手を巻き盡したまへ！（指輪を受取つて、それをわが指にはめつ）いゝか？
かうしてゐる、此指に感覺のある限り。……可愛い、うつくしいお姫さん、見るかげもないわたしの身を貴いあなたと取換へっこになすつたのは、非常なあなたの損でしたが、かういふ小ちやな物に於ても、やつぱりわたしが得をしますよ。（と自分の腕輪をはづして）さ、これをわたしの爲に附けてゐて下さい。この愛の手枷を此うつくしい囚人にはめさせておかう。

イモーセンに腕輪をはめさせる。

イモ

お、神々さま！……いつまた逢へるでせう？

と又取りすがる。此とたんに一方よりシムベリン王及び貴族ら出る。

ボス

（それと見て）あゝ、王が！

二人離れる。

シム

（ボスチューマスを覗んで）えゝ、下司やつこめ、出ていっちまへ！ 目通りは叶はん。出ていけ！ かういひ渡した後にも、もしも其やくざな姿を此朝廷内に現はすやうだと、汝の命はないぞ。いっちまへ！ 汝はおれの氣分の毒だ。（天を仰いで）神々があなたを護らせられますやうに！ 又、此朝廷の他の善良な人々を祝福せられますやうに！……はい、立去ります。

ボスチューマス入る。

イモ

（手を振絞つて）死の苦みだつて、よもやこれほどに辛くはあるまい！

シム

お、不孝者め！ おれを若返らせるが當然の身でありながら、おれの壽命をちやめやがつたやつめ！

イモ

お父さま、どうぞそんなにお怒りにならないで下さい、お毒になりますか

ら。わたしはあなたがお怒りになつても、何とも思ひません、どんな苦しさをも、どんな怖ろしさをも消してしまふずつとく、貴い感じが働いてをりますから。

シム 罰當りめが！ やさしさもなけりや、すなほさもないのか！

イモ 望みもなけりや、生効もないのです。その意味では、もうとうに罰が當つたも同然です。

シム 妃の一人息子を夫にもたせてやらうと思つてゐたのに！

イモ あゝ、さうならなくつて幸福でした！ わたしは鷲を鳶に見かへました。

シム いゝや、乞食を夫にしたんだ。下司の血で王位を汚さうとしたんだ。

イモ いゝえ、王位に光りを添へたのです。

シム おゝ、おのれ、卑劣千萬なやつめ！

イモ お父さま、わたしがボスチューマスを慕ふやうになつたのは、あなたの故で

す。あなたはあの人とわたしを幼い時から一しよに遊ばせてお置きでした。あの方はどんな女にでも過ぎてゐます。わたしをあの方は殆ど支拂つた額だけ買ひかぶつてゐるのです。

シム 馬鹿ッ！ 汝は氣がちがつたのか？

イモ えゝ、あぶなく。神さま、どうぞお治し下さい！ あゝ、わたし、農夫の娘

と生れたかつた、さうしてあのリオネータスが隣の牧羊者の息子さんであつたらよかつた！

シム 馬鹿ものめが！……

妃 又出る。

妃 (妃に)二人は又一しよになつてゐた。お前さんはわしのいひつけた通りにしなかつたね。早く彼女をつれていつて、押込めておしまひなさい。まア、さうおつしやらないで。……(尙泣きながら何かいはうとするイモーゼン

を制して) しッ! 姫や、しづかに!...ねえ、もし、あなた、こゝはわたくしにお任せ遊ばせ。御機嫌をおなほしなさいまし、じつと御分別遊ばして。毎日一滴づゝ血を絞つて憔悴させろ。さうして年をとつて、此いたづらの罰で死んぢまへ!

王及び貴族ら入る。

妃

まア!...:(イモーゼンに) 剛情をお張りでない。...

ホスチューマスの家来ビザニオ出る。

あそこへあなたの召使ひが来ました。...:(ビザニオに) どうしました? 何か知らせかい? 何

ピザ

御子息の若殿さまが手前の主人に決闘をおしかけなさいました。

妃

えッ! よもや怪我はしやすまいね?

ピザ

さア、おあぶなうございましてらうよ、主人が戯半分に、腹をも立たない

妃

であしらつてゐましたからようございしましたが。それに傍においで紳士がたがお引分けなさいました。

イモ

まア、そりやよかつた、

御子息さんはお父さま方ですから、それできつと肩をお持ちなすつたのよ。追放される人に決闘をしかけるなんて! まア、お立派なこと! アフリカの砂漠か何かでお立合ひなさればよかつたに。わたし其そばにゐて、針で退去りする人を突ついてやりたかつた。...:(ビザニオに) なぜ御主人をほうつておいて來ました?

ピザ

おいひつけでしたから。港まではお伴をすることをお許しになりませんでした。あなた様の御用をば何でもお吩咐通り勤めろといふ此お手紙をお残しでした。

妃

此人は忠實にあなたにお仕へしてゐました、此後とてもきつとさうだら

うとわたしを保証します。

お妃さま、ありがたうございます。

（ビザニオに）暫くあつちへいつて下さい。

イモ

（ビザニオに）もう半時間もたつてから、わたし話があります。せめて、船へお乗込みになつたかどうかを見ておいで。今はお退り。皆々入る。

第二場 同所 往還

妃の先夫の子クローテンと貴族一、二と出る。

貴一

もし、肌衣をお着換へになつたはうがい、でせう。お働きの激しかったか

クロ

ら、お體中が犠牲よろしくといふ湯氣です。風といふやつは、とかく其出るるところへ入りたがりますからね、さうして世間には、あなたの御體内の風のやうなそんな健全な風はありませんからね。

貴二

肌衣に血が附いてるなら、換へよう。……奴は負傷をしたかい？

貴一

（傍白）どういたしました。相手は堪忍袋をさへ破損しちやゐません。負傷ですツて？ 若しあれで負傷をしなけりや、奴の體は抜け裏式です。

貴二

鋼鐵に限り通行自在です、あれで平氣なら。（傍白）ところが、大將の劍は借金があるんで、そこで裏通りを通つたといふもんだ。

クロ

あの野郎、迎もおれに向ひ得ないや。

貴二

（傍白）どうして！ 只もう前へくと逃げましたよ、ついあなたの鼻の先へね。

貴一 向ふどころですか！ あなたはとうにもう十分地歩を占めておいでし
たが、奴は更に又讓歩しました。

貴二 (傍) 譬へば、あなたに何千里といふ御領分があつたとすると、たかゞ一寸か
二寸ぐらゐね。……へッ、女犬どもが！

と貴族の一を尻目に掛ける。

クロ あいつらが来て引分けなけりやよかつた。

貴二 (傍) 全く。さうしたらお前は地上に平伏つて、どのくらゐ自分が低能だか
をうぬが身長で度ることが出来たらうに。

クロ 姫があんな奴を可愛がつて、おれを嫌ふてのは！

貴二 (傍) 若しも當然な選擇をしたのが罪惡だとすると、お姫さんは地獄へ落ち
るね。

貴一 さア、いつかも申した通り、お姫さんはうつくしいが、お賢明ぢやありませ

貴二 ン。つまり見た目ばかりが立派な看板(ホスター)よろしくです、ねつから警
句らしいものが閃いてゐません。

貴二 (傍) へッ、あの鏡は馬鹿者相手にや光らないとき、馬鹿者の影が映ると汚く
なるからね。

クロ さア、おれは居間へ行く。……奴め、負傷をしてゐやがるといゝがなア！

貴二 (傍) おれはさう思はないね。驢馬のはうなら、死んでもかまはないけれど
も、大した損ぢやないから。

クロ 一しよに來ないか？

貴一 へい、お伴いたしませう。

クロ おい、一しよにゆかうよ。

貴二 はい、かしこまりました。

みんなはひ
皆入る。

第三場 シムベリン王の宮殿の一室

イモーゼンとピザニオと出る。

イモ

港口に生え附いたやうになつて、一艘づゝ訊いてお見ならよかつたの
に。手紙をお送りになつたのを若しもわたしが受取らないやうだと、折
角の神の御仁恵を戴きぞこなつたも同様だわ。……一等おしまひに何とお
つしやつて？

ピザ

「わたしの女王、わたしの女王！」とおつしやいました。

イモ

それからハンケチをお振りになつて？

ピザ

さうしてそれに接吻をなさいました。

イモ

あゝ、あゝ、感覺のない麻布のほうか！ すつとわたしよりも幸福だわ！

ピザ

……それツきり？

いゝえ、まだございます。お互ひに目で以て姿を見分けることが出来ま
した間は、主人は甲板に出ツきりで、手袋か、帽子か、ハンケチかをしよつち
ゆう振つてをられました、船は速く走つても、如何に主人の魂ひが進みか
ねてゐるかを、さうした心の動搖でこそ一等よく知らすことが出来ると思
はれましたかの如くに。

イモ

鴉よりも小さくおなりになつたまで、お前、見送つてゐればよかつたもの
を。

ピザ

へい、さういたしてをりましたのです。

イモ

わたしなら、此視神経が裂れつちまふまで見送つてゐたでせう。……さうよ、
ちぎれたほうがいゝわ、見送らないくらゐなら、……遠く／＼なつて、針

の尖端のやうに微かにおなりになるまで、いゝえ、蚊よりも小さくなつて、
空気に溶けておしまひになるまでも、じつと見送つてゐて、さうしてそれ
から此方へ向き直つて、泣いたでせう。……(涙を拭いて)ビザニオや、いつ便
りがあるだらうねえ？

御都合が附き次第にお便りがございませう。

お別れした時に、まだいひ残した大切なことがいろ／＼あつたけれど……
かういふ時刻にはかういふ事をあなたの爲に念つてゐるといふ事や、どん
な伊太利女のためにだつて、わたしの利益やあなたの名譽を決して裏切る
やうなことをして下さるな、それを誓つて下さいといふ事や、朝の六時と
晝と夜中とお祈りをして下さい、わたしも同じ時刻にお祈りをして、天
で一しよになるやうにしますからといふ事がいひたかつた。それから、
なつかしい二つの語をいひながら、別れの接吻がしたかつた。けれども其

ビザ
イモ

間もないうちに、お父さまがおいでになつて、むごい、つれない北の風のや
うに、咲きかけたばかりの花の蕾を吹散らしておしまひなされた。

宮女一人出る。

宮女

お姫さま、お妃さまがお召でございます。

イモ

(ビザニオに) 今いひつけたことをみんな實行しとくれ。わたしはお妃のと
こへ参ります。

ビザ

承知いたしました。

皆入る。

第四場 羅馬 伊太利人フィラリオの家

主人 フィラリオ、其友の紳士ヤキモー、一佛蘭西人、一和蘭人、及び一

西班牙人出る。

ヤキ まつたくでき、わたしはあの男にブリテインで會ひましたよ。あの時分が正にあの男の人氣盛りで、後に得た名譽は、もう其頃から當然得べきものと期待されてゐたのです。けれどもわたしだけはあんまり感服にも及ばないで以て、靜かにあの男を見てゐたのでした。あの男の長所や才能が、いはゞ、目錄仕立の一つ書きにされて、すぐそばに掛けてあつて、わたしはそれを一つく讀まされたも同然であつたんですがね。

フリラ そりやまだあの仁が、今ほど内外の仕上げが出来上つてゐなかつた頃のことだらう。

佛人 わたしも佛蘭西であの男に會つたが、あそこにも、あの男ぐらゐの平氣さで太陽と睨めくらをし得る者は、随分あましたよ。

ヤキ つまり、王さんの女と夫婦になつたといふ一件が原で、實價以上にいひ觸

佛人 らされてるんですよ。無論、そのお姫さんのお庇でさア。

ヤキ それからその、追放になつたといふことがね……

佛人 さうとも、それからその、離縁になつたのを氣の毒がつて歎くその娘さんの配下の者共が、めつばふあの男を讚め上げたんです。といふのは、さうしないと、その娘さんが、無分別にも、何の取りえのない乞食男に惚れたといふことになつて、さんくゝわるくいはれなけりやならないことになるからだらう。だが、どうしてあの男が君と一しよに住むことになつたんだい？ どういふ因縁だい？

フリラ わたしはあの仁の親父と一しよに出陣してゐた。さうして幾度もあやふいところを助けられたことがあつた。……(一方を見て)あ、噂してるブリテイン人が来た。……諸君はいづれも通人だ、どうかあの仁を身分のある外國人として御待遇なすつて下さい。

ボスチューマス 出る。

(改めて皆に) 諸君、此方は手前の親友で、立派な御仁です。どうか以後御別
懇になすつていたゞきたい。如何に立派な御仁であるかは、御當人の前で
手前が申すよりも、自然にお解りになるのを俟ちませう。

佛人

(ボスチューマスに) 嘗てオルレヤンでお知交になつたことがありましたつけ。

ボス

あれ以來まだ御深切のお報いをしませんでした。何度お支拂ひをしても、

佛人

あの時のお借りは濟し切れません。

何の、あればかりの事を、御鄭重で痛み入ります。が、國の者とあなたと
の一件を仲裁したのは私の喜びでした。あんな些細な、つまらんことで、
双方とも命がけになつて、立合ひをなさらうてのは、お氣の毒なことでは
たからね。

ボス

失禮ですが、あの時分はまだ年が若くて、旅馴れてゐませんでしたから、何

をするにも、他人の經驗を聽いて教へられるよりも、むしろそれに隨ふの
を避けるといふ風でした。けれども今では大分考へが練れて來ましたが、
その今の料簡で考へて見て：と斯う申しては失禮かも知れませんが：
：あの一件は必ずしも些細な、つまらん問題ではなかつたのです。

佛人

いゝや、たしかに、劍で取捌くほどの事ぢやなかつたのです、二人のうちど
ちらかは屹度やられる、或は双方とも命を失ふかも知れないのを承知です
るほどの事ぢやなかつたのです。

ヤキ

失禮でなかりや、そのお争ひの次第を承りたいものですねえ。

佛人

さしつかへはありますまい。公然の争論であつたんだから、お話したと
て不都合はないでせう。それは、ちやうどあの昨夜の一件に似てゐたん
です。めいゝくが國の女の自慢をしあつたのです。と、此方が其時：
：これが間違つたら一命を賭けると誓言して：：御自分の妻君を佛蘭西

ヤキ

のどの女よりも、最も稀れな淑女よりも美麗で、多能で、聰明で、貞潔で、堅固であつて、どんな誘惑にも乗せられはしないと主張せられたのでした。
(冷笑口調で)その御婦人はもう御存生ぢやありませんまいね、でなきや、此方は
(ホスチューマスへ思ひ入れをして)もう其お説をお取消しになつたでせうねえ。

ホス

その女は今でも其美德を維持してゐます。わたしの意見も變りません。

ヤキ

でも、此伊太利の女たち以上だとおつしやるわけにはいきまますまいて。

ホス

佛蘭西でもさういふ行懸りからでしたが、さうおつしやられて見ると、寸毫も前説を翻すことを好みません。これは其女の情人としてゞはなく、深厚なる崇敬者としていふのです。

ヤキ

其美なるが如くに善……よく並べていふ語ですが、……單にさうおつしやつただけでも、ブリテインの婦人にとつちやア少々溢美でもあり溢善でもあるやうに思ふのです。若し其婦人がですね、あなたの其(と指輪へ思ひ入れ

ホス

をして)ダイヤがわたしの曾て見た澤山のどのダイヤよりもずつと光りが立勝つてゐると同じ程度に、わたしの見たどの婦人よりも立勝つてゐなればだ、そりやア随分わたしたつて信じませうがね、しかしわたしはまだ天下第一等といふダイヤを見たことはありませんや。あなただつて、そんな偉い女を御存知の筈はないや。

わたしは自分自身の評價によつて讚めるんです。ダイヤに對してもさうです。

ヤキ

どのくらゐに評價なさるんです?

ホス

此世界が有するあらゆる物以上にです。

ヤキ

其無類の御婦人は、もうお亡くなりなすつたんでせう。でなきや、少々讚め過ぎでせう。

ホス

そんなことはありません。世界の有する一切は、若しそれを買ふだけの財

力があれば、賣られもする、又それを貰ふだけの資格のある者には、與られもする。が、あの婦人だけは賣り物ではなく、一へに神の下された物です。ちや、その婦人を神さまがあなたに下すつたので？

ボス さうしてそれは、神のお庇で、尙此後ともわたしの物なのです。

ヤキ さア、名義だけはね。けれども、とかく變な鳥が近所の池や沼へおりるものでさ。其指輪だつて盗まれたなことがあつたらう。だから、今お話の、二つの滅法界もない貴重な物だつてもね。かた／＼は水性から、かたかたは手ぬかりから。狡猾な盗賊か、其道に老練な風流漢でありや、そのどつちをも手に入れようと掛かりませうぜ。

ボス 此伊太利には……あなたは誘惑されるか否かによつて、女を水性だとおつしやるのでせうが……わたしの女を誘惑し得るやうなそんな風流漢はゐません。成程、盗賊は此國に大勢ゐませう、けれどもわたしは此指輪を盗

まれようとは思ひません。

二人がやうやく氣色ばむ。

フライ 兩君、もうそのお話はおよしなさい。

ボス はい／＼、よしませう。いや、どうも此方は非常に御深切です。はじめてお目にかゝつたやうでなく、舊知己のやうに、打解けてお話しをなすつて下さるのです。

ヤキ 今しやべつた五倍程もしやべりや、わたしはその、あなたの御婦人を大丈夫、くどき落して、いふことをさへ聽かせて見せます、其家へ入り込んで親しくすることが出来さへすりや。

ボス 否々。

ヤキ ちや、あなたの其指輪に對して、わたしは自分の財産を半分賭けませう。價格は其指輪よりや幾らか以上だらうと思ふのです。が、あなたがあんな

ボス　り信じ過ぎておいでなさるから、賭をするのです、特に其婦人を疑ふわけぢやアないが。で、この事に關して不快をお感じにならんやうにするためにいふが、わたしは世界中のどんな女をも、敢て同様に扱ひます。さう大膽に自信してゐなすつたら間違ひませう、きつと自業自得の目にお逢ひなさるでせうから。

ヤキ　といふのは？

ボス　撥ねられて恥をお搔きでせう。實は、さういふ事をなさりや、更にそれ以上にお罰をお受けになつても當然なのです。

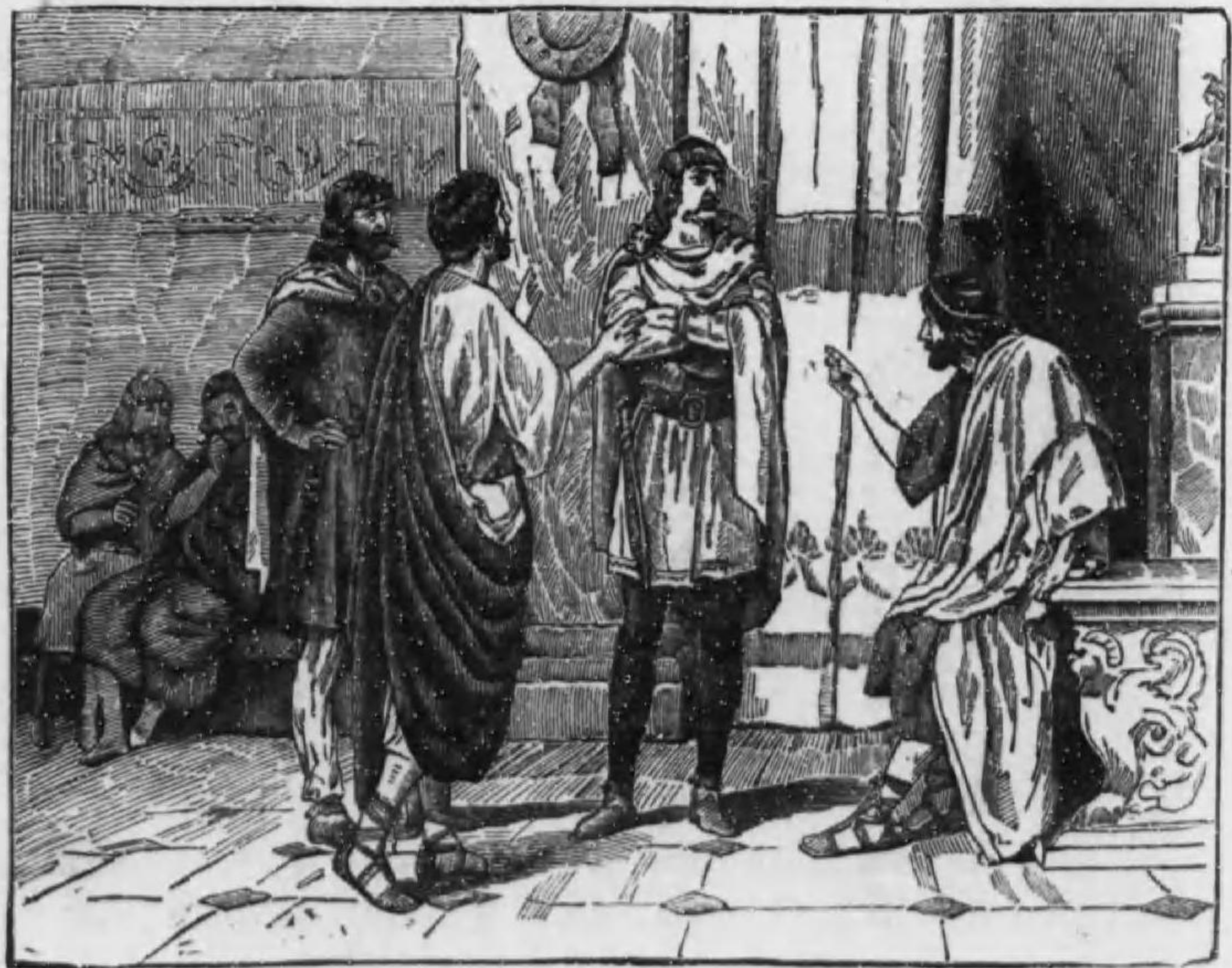
フリラ　兩君、もう澤山です。だしぬけにとんだお話になりましたね。突然と始まつたんですから、突然とお終ひにしませう。さうして、これからもつと御別戀になすつて下さい。

ヤキ　(ますくむきになつて) 自分のはもとより、近所の者の財産をも今いつたこと

を證明するためなら、賭けてもいゝのだ。

ボス　どこの婦人を襲つて見ようといふのです？

ヤキ　あなたの婦人をさ。あなたは妻君を、大丈夫、貞女だと信じてゐるんだらう。わたしはあなたの其指輪に對して一萬兩を賭けませう、わたしを其婦人のをられる宮中へ紹介して下さい。たつた二度會つて話をする機會さへ與へて下さればいゝ。すれば、あな



たが大丈夫自分の物だと想像しておいでなさる其御婦人の操を、わたしが頂戴して戻つて來ます。

ボス あなたの金に對して、わたしも金を賭けませう。此指輪は此指ほどに大切なのです、指の一部も同然ですから。

ヤキ 怖いんですね。それでこそ怜悯です。婦人の肉でものは、たとひそれを一もんめ百萬兩でお買ひなすつたつて、到底腐らせないでおくわけにはいかないものだからね。だが、あなたにやまだ良心がありますね、怖がんなさるところを見ると。

ボス (じつと怒りをこらへて) そんな風におつしやるのは、あなたの口癖たるに過ぎないのでせう。實は、もつと眞面目なことを考へておいでなさるんせう。

ヤキ (開き直つて) わたしは決して出鱈目はいいひません。口外したことは誓つて

實行します。

ヤキ きつと？ ちや、お歸りまで、此ダイヤモンドをお貸與します。契約書を取交しませう。わたしの愛人は、其貞淑の度に於て、あなたの其途方もない間違つた推定に優ること萬々です。わたしは敢て賭をします。…さ、指輪を。

フィラ (制して) 賭事になさらんはうがい。

ヤキ なアに、おなじこつてさ。もしわたしが十分の證據を持ち歸り得なかつたら、わたしの一萬兩はあなたの物です。そのダイヤとてもだ。若しわたしは歸つて來て、さうして婦人は尙依然としてあなたが信じてゐた通りの貞女であるとするれば、其、あなたのお寶の御婦人も、此、あなたのお寶も、わたしの金も、みんなあなたの所有になる。但し、わたしが十分歡迎されるやうに推薦狀を書いて下さることを必要とします。

ボス それは承知しました。お互ひに約條書を取交しませう。只これだけ確答しといて貰はう。若しあなたが彼女を試みて慥かに成功なすつたことをわたしに信ぜしめることが出来れば、わたしはあなたを敵とはしない、彼女は敢て論題とするに足らないからだ。が、若し彼女が誘惑されず、さうしてあなたが其反對の證明を與へ得なかつた場合には、彼女を悪評し、剩へ其貞操を毀けんとなすつた行爲に對しては、須からく劍によつてわたしに返答をなさるべきです。

ヤキ お手を。(握手して) 約束しました。此契約の條件は、一々法規通りに登記させて、其上で、すぐにブリテインへ立ちます、ぐづぐづしてると、契約が風を引いて餓死でもするといけんから。どれ、金を取つて来て、双方の賭物を記録させておきませう。

ボス よろしい。

佛人 ボス、チューマスとヤキモー入る。

佛人 實行に及ぶでせうか？

フィラ ヤキモー君はやりかけたらやりませう。ねえ、従いてつて見ませう。皆々入る。

第五場
ブリテイン シムベリン王の宮殿の一室

妃宮女ら及び侍醫 コオネリヤス出る。

妃 露の乾かないうちに、花をお摘み。いそいで。書き附けはだれが持つてゐますか？

女一 わたくしが持つてをります。

妃

おいそぎ。...

宮女ら入る。

ねえ、先生、あの薬を持って来て下さいましたか？

はい、持参いたしました。これでございます。...

コオ

小さい匣を渡す。

え、あの、甚だ失禮ではございますが... 何となく気が咎めますので承
はりますか... どういふわけで、かやうな毒薬の調合を手前にお命じにな
りましたのでございますか？ これは漸々に人を死に到らしめますもの
で、緩慢ながら必死の激薬でございます。

妃

まア、先生、どうしてそんなことを尋ねるのです？ わたしは長いことお

前さんのお弟子になつてゐたぢやないの？ 香水の製し方を教へたのも

お前さんでせう？ 蒸溜したり、貯藏したりすることもです。ですから、

コオ

今では王御自身が折々
たしに調劑をお求めにな
るくらゐですの。そこ
まで進んだ以上... わた
しを悪人とお思ひなら知
らんこと... わたしが更



に他の試験をして知識を増さうとするのは當然ぢやないの？ わたしは
此毒薬といふのを、絞殺するだけの價値もない、勿論、人間でない動物に試
みて見て、其效力を驗した上で、なほ其作用を和げる薬劑を用ひたり何か
して、それらの薬徳や効果を知らたいと思ふのです。

さういふお試みを遊ばすと、とかくお心が酷くお成りになる虞れがござい
ます。のみならず、その効果を御覽になりますのは、おいやらしくもあり、

且つ傳染の御危険もございます。

お、おかまひでない。……

ビザニオ出る。

(傍白) あそこへ阿諛の賤奴めが来た。先づ、あいつに試みて見よう。あいつは主人思ひで、件のためには仇敵だ。……(ビザニオに) どうしましたよ、ビザニオ。……(侍醫に) 先生、もう今日はこれでよろしいのです。どうぞ御隨意に。

コオ

(傍白) どうも怪しい。だが、わるいことは出来ないやうにしておいた。……

妃

(ビザニオに) これ、ちよいと話すことがあります。

一隅へビザニオと共に退る。

コオ

不氣味な婦人だ。漸々に利く不思議な毒薬を手に入れた積りであるが、氣質を知つてゐて見れば、そんな怖ろしい薬をあゝいふ腹の黒い女に渡さ

コオ

おいとまを仕ります。

コオネリヤス 入る。

妃

れるもんぢやアない。あの薬は暫時感覺を麻痺させるに過ぎない。多分あれを先づ犬や猫に試みて、それからそれ以上の者へ向けるのであらうが死んだやうに見えてゐても、それは只ほんの一時脈が止るばかりで、息を吹返せば、前よりも元氣になるんだ。嘘の薬だとは知らないおろかなお妃！ かういふ場合には、嘘を吐くのが正直の證據だ。

(コオネリヤスに) 先生、もう用はありませんよ。あつたら、又呼びにあげませう。

妃

(ビザニオに) え、姫はまだ泣いてゐますツて？ お前は どう思ひます、其おろかな心が落ちついたなら、異見を聴くだらうかね？ 骨折つて見とくれ。件を愛するといふ姫の口上を持つて来てくれさへすれば、お前をすぐに今

の主人の、あのボスチューマス以上の身分にしてやります。といふのは、あの男はもう名も財産も死にかゝつてゐるのですから、歸つてくることも出来なければ、今ゐる處に留まつてもをられず、といつて、住居を變へても、それは不幸に易へるに不幸を以てするばかりで、来る一日毎にあの仁は滅びて行くのです。あんな、今にも倒れさうな、建直しの望みのない、自分だけをも支へかねてゐる男を頼みにして何になりますよ？……

この途端に妃は侍醫から受取つた薬の小匣を取落す。それをヒザニオが拾ひ上げて妃へ渡さうとする。

拾つたそれが何だかはお前知らないだらう。骨折賃に取つておゝき。それはわたしが製へた……王のお命を五たびまでもお救ひした……外に類のない妙薬です。いゝえ、取つておゝき。まだいろく引立てゝあげるための、是れは手附です。姫に今いつた事情をよつくお話し、お前の考へ

のやうにしてね。ね、乗り換へた結果がどうなるかを考へて御覽。姫はやつぱりお前の主人ですし、それに、件もお前に氣を附けることになりま

す。また、王に申しあげて、お前の望み通り、どんなにでも立身させます。それから、わたしは、お前に此骨折をさせるのはわたしなんだからね、無論十分に、お前の功勞に報いる積りでゐますの……女どもを呼んどくれ。今いつたことを忘れないでね……

ヒザニオ 入る。

(見送つて)狡猾な、剛情なやつ。中々動かない。主人の代役を勤めて、結婚の契約書を始終姫に見せつけてゐようといふ記録係り。だが、今いゝ物をくれておいたから、あいつがあれを飲みさへすれば、彼女の情夫の代理人を追ッ拂らふことが出来るといふものだ。彼女とても若し剛情を張りや、やつぱりあの薬を食へさせませう……

ビザニオと共に宮女ら出る。

おゝ、御苦勞々々々。堇や蓮馨花や櫻草はわたしの居間へ持つてつとくれ。……ビザニオ、さやうなら。先刻いつたことをよくお考へなさい。妃と宮女ら入る。

はい、心得ました。……御主人へ不忠をするくらゐなら、首を縊つて死んだほうがいい。(妃のうしろ影を見送つて)それ以外の事は出来ませんよ。入る。

第六場 同處 宮殿の他の一室

イモーセン 出る。

イモ

むごいお父さんと腹黒な繼しい母親……夫を追放されてゐる者へ結婚を申し込む阿呆者……おゝ、あんな立派な夫を！それがわたしの第一等の悲みだのに、尙いやが上にいろくな、辛い悲しいことばツかり！いつそ兄さんたちのやうにかどわかされたなら、幸福であつたらうに！あ、つまり、高尚な慾望は人を一等不幸にする。どんなに貧しくツても、身分相應の正しい意志が遂げられれば、そこにおのづからの満足があるけれど……(一方を見て)だれだらう？……まア！

ビザニオとヤキモーと出る。

ビザ

奥さま、羅馬から、殿さまのお手紙を御持参でお立派なお方がおいで、ございます。

ヤキ

奥さん、お顔の色をお變へになるには及びません。リオネータさまには何のお變りもなく、あなた様へよろしくとのお言傳でございます。

手紙を渡す。

イモ ありがたう。ようこそおいで下さいました、

ヤキ (傍白)外に現れてる限りは非常に立派なものだ。内の心が同等に立派であつた時分には、所謂鳳凰よろしくといふ女だから、賭はおれが負だ。……太ッ腹よ、どうか身方になつてくれ！ 圖太い根性よ、おれの甲冑になつてくれ！ でなきや、パーシヤ人のやうに、逃げ腰をしながら戦つて見る歎、いや、いつそすぐに逃げッちまふかな。

イモ (手紙の封を切つて讀む)「彼れは人格の高尙なるを以て知られたる一人にして、予は限りなく其厚誼に浴せり。彼れを優遇せられよ、子を重んじたまはば。御身の忠實なるリオネータス。」

聲を出して讀むのはこれだけ、けれども外に書いてあることで此心の底までも温くなつたやうだ。あゝ、嬉しい便り！……あなた、ほんとによろお

イモ いで下さいました。わたしは口で申し得られる限り、また力の及ぶ限り、御歓迎しようと思存じます。

ヤキ ありがたうございます。……(こらへかれて、われ知らず言ふ獨語のやうに)え、人間は氣ちがひなのか？ 自然は人間に(空を仰いで)此大きな圓天井を、また海や陸の豊富な産物を見る目を與へて、あの大空の星と濱の、夥しい、あの摺兒かと思ふやうな真砂とを見分けさせてゐるのに、そんな立派な眼鏡を有つてゐながら、美と醜との見さかひが附かんのか？

イモ (驚いて)なぜそんなに呆れたり駭いたりしておいでになるのです？
ヤキ (わざとイモーゼンの話を聞かぬ體で、やはり獨語のやうに)いや、目の故ぢやない。猿猴類とても、かういふ婦人と他の女とを見た時分にやア、一方へはキツキツといつてなじみ、一方へは齒を剥くだらう。いや、こりや分別力の多少でもない。なぜなら、白痴でも斯ういふ美人を見りや、賢明な判断をする

だらうから。いゝや、肉慾にくよくの故せいでもない。こんな綺麗きれいな方かたの事ことを思おもひ出だしやア、だらしのない下司かす女をんななんぞにや手ては出でない筈はずだ、空肚すきはらの胸むねだつてむかついて、無む一物もつの胃袋いぶくろからでも戻もどす筈はずだ。

イモ

どうなすつたの、ほんとに？

ヤキ

(なほ續けて) こりや全く榮耀えいように壓おいた慾よくの故せいだ。壓おいて而しかも飽足あきたらない慾よくてやつだ、一ぱいになつて、さうして溢あふれ出だしてゐる桶せきだ。最初さいしよに上等じやうとうの羊肉やうにくをたらふく食たべつちまつたんだ、で、今度こんどは腐くさつた屑肉くすにくを食たべたがつてゐるんだ。

イモ

もし、あなた、何なにをさう夢中むちゆうになつておいでなさるのです？ お氣分きぶんでもわるいの？

ヤキ

(はじめて心附こころづいたらしく) ありがたう。いゝえ、何なんともないのです。……(ビザニオに) どうか伴つれの者ものに、先刻せんこく待まちたせておいた處ところにゐろとおつしやつて下さい。

ビザ

土地とち馴なれん上うへに解わから屋やですから。只今ただいま迎むかひに參まゐらうとしたところでした。

ビザニオ 入はいる。

イモ

夫おつとは健康すこやかでをりますか？ ねえ、どんな様子やうすでしたか？

ヤキ

おすこやかでした。

イモ

愉快ゆくわいさうにしてをられますか？ さうだらうとは存ぞんじてゐますが。

ヤキ

非常ひじやうに御陽氣ごやうきです。外ぐわい國こくの方かたであんなに愉快ゆくわいな、お遊あそびすきな方かたは外ほかにありません。宴會えんかいすきのブリトンさんといふ名なで通とほつてゐます。

イモ

こちらにをられた間あひだは、とかく鬱ふさぎがちでした、時々ときどきはどういふわけともなく。

ヤキ

つひぞ鬱ふさいでおいでになつたことはありません。お友達ともたちにお歴々れきよくの佛蘭フラン西人スズジンがあります、其方そのかたはお國くにに残のこして來こられた或娘あるむすめさんを大變たいへんに愛あいして

をられるらしいのです。で、折々思ひ出しては、火のやうな溜息をなさるんです。すると、陽氣なブリトンさんは……あなたのお殿さんがです。大口を開いてお笑ひになつて「お、腹が裂ける、腹が裂ける、女て者は歴史の誨へや世間の噂や自分の實驗によつて、斯うと正體の分り切つた、いや、きまり切つたものであるのに、苟もそれを知つてゐる男子が、溜息を吐くとは！」と、さうおつしやるんですよ。

イモ (信じかれて) 夫がそんなことをいはれましたの？

ヤキ え、く、をかし涙を目に一ぱいお溜めなすつてね。其佛蘭西人をおひやかしなさるのを傍で聽いてるのは面白うござんしたよ。ですがね、そりやアその、随分、世間には、薄情な男もあるもんでさ。

イモ 夫はそんな人ぢやあるまいと思ひます。

ヤキ さやうでせう。が、御主人は、もつと、天のお恵みを有りがたいことに思つ

て、大切になさらんけりやいけますまい。御自分だけでも十分ですのに、あなたツて方が……御主人の所有でせう、……ですから、全く以て無量の無法なんで。わたしはそれを驚歎せざるを得ないと同時に、又頗るお氣の毒だと思はないわけにはいかないのです。

イモ だれを氣の毒だとおつしやるのです？

ヤキ 二人のお人をです、眞實、心から。

イモ わたしが其一人ですか？ じつと見ておいでなのは、わたしの顔に、不祥な、氣の毒がられるやうな兆でも見えてゐますか？

ヤキ (獨語のやうに歎息して) なさけないこつた！ 光り輝く太陽を袖にして、きたない土牢の中で、燃えさしの蠟燭を點してゐるとは！

イモ どうぞ、もつとはつきり、わたしに返辭をして下さい。なぜわたしを氣の毒だといふのです？

ヤキ あんな者があなたの……（と言ひかけて）いや、つい口へ出しかけたが、こりや神さまたちのお計ひに任せべきだ、わたしが口外すべきことぢやないのだ。

イモ あなたは何か知つておいでらしい、わたしの事を、又はわたしに關したことを。どうぞ、その、いはうとなさりながら、いふまいとなさることをおつしやつてしまつて下さい。何か凶事がありはしないかと疑つてゐるのは、それを慥かめたよりも心苦しいことですから。いつそ斯うときまれば、諦めも附きます、また時おくれでなければ救ふ法もあります。

ヤキ （まだ獨語のやうに）かういふ頬に接吻したことが假にもあつて……かういふ手を……只ちよつと觸られても命がけの誓言がしたくなりさうな如是手を……見るとそのまゝ、きよろつきたがる目をも擒にして、居据らせてしまふ斯ういふ綺麗な物を、假にも俺が知つてゐて、それでゐて、大神殿の階

段同然の、あの汚い唇をしやぶつたり何かするやうなら、罰當りの骨頂だ、……毎日嘘で以て、労働者のそののやうに、堅くなつてゐる手を握つたり、腥い獸の脂火よろしくといふ下卑た、どんよりした、いやらしい目を流眖で見たりするやうなら、地獄に有リツたけの疫病が、一度期に、其不實者に降りかゝるがいに！

イモ （少し不安を感じて、半分獨語のやうに）もしや夫がブリテインをお忘れになつたのぢやないかしらん。

ヤキ いや、御自分をも忘れておいでゝす。わたしは其あさましいお心がはりを、あなたには決してお知らせ申すまいと誓つてゐたのでしたが、あなたのお美しさに魅せられて、つい、口がすべりました。

イモ （愁ひに洗んで）もう後はいつて下さるな。

ヤキ あゝ、どうもお可哀さうなお方！ お氣の毒でたまりません。此胸が痛く



なります。こんなお美しい、一
 王國のお姫さまともあらうお
 方が、どんな偉い王さまをも二
 倍になさらうといふお方が：
 淫賣女と同列に！ 而も御
 自分のお手箱からお貢ぎなさ
 る其お金で買はれる、金さへ貰
 へば、どんな悪疾の男とでも戯
 れる、毒中の毒ともいふべき下
 司女と同列に見なされなされ
 るといふは！……仕返しを
 なさいまし。でないとお母

さまはお妃ちやアなかつたらうなんていはれます。 お立派な御血統の辱
 になります。

イモ 仕返しをせいッて！ どうして仕返しをするのです？ お話の事が本當
 なら……耳で聞いたわけでは信じかねます……けれども若し本當なら、ど
 うして仕返しが出来ませう？

ヤキ (半分獨語のやうに) 何も、月神の神官のやうに、冷い夜着にくるまつて味氣
 なく生きてゐなけりやならん筈はない、あの男が(トイモーセンに)あゝいふ檻
 褌買をしてゐるのに……あなたを馬鹿にして、あなたのお金を費つて？
 (すつと進み寄つて跪いて) わたしはあなたに此一身を獻げます。 あの不實者よ
 りはずつと立派な男です。 愛した以上は、いつまでも、祕密に、忠實に、決
 して渝りません。

イモ (驚いて排斥しつ) おゝい、ピザニオや、來ておくれ！

ヤキ

眞實にお仕へする證據を、其お口で受けて下さい。

と立寄つてキッスしようとするのを激しく排けて

イモ

さがれ！ 今まで聽いてゐたのさへ汚らはしい！ お前が正しい人間なら、道徳のためにこそ今のやうな話をすべきです、それなのにそんな卑しい目的のためにするとは奇怪千萬です。お前に廉恥心の露ほどもないとおなじに、露ほども不名譽のない立派な紳士をさんぐに譏誣した上に、貴女に對してみだりがはしいをいひかけるお前を、わたしは悪魔同様にいやしみます。…おうい、ビザニオや、來ておくれ！…此無禮を父の王へ知らせます。若し父が此宮中を羅馬の遊女屋のやうに思つて、みだりがはしいとを口にする外國人を寛假するやうなら、父は政道を怠るのです、また其女を重んじないのです。…おうい、ビザニオや、來ておくれ！
(すつかり態度をも調子をも變へて) あゝ、幸福なリオネータスよ！ と斯う評し

ヤキ

て當然だ。君が信任した程あつて、奥さんも君を信じ切つてゐる。また信じ切つてをられる筈だ、君も完全無缺なもの。この天のお恵みをいつまでも享樂なさい！ 其國に又と比類のない立派な紳士の奥さん！ あなたがそれだ、またあなたでなくツちや比類のない人の奥さんにはなれない！ 失禮をしました。只今のやうに申したのは、あなたがどのくらゐ信じておいでかを知りたいからでした。さうしてあの忠實な御良人をしてます〜忠實ならしめようとしたのでした。あのお方は清らかな魔法使ひとでもいふのでせう、世間の者がみんな魅せられたやうに牽き附けられます。だれの心も半分がたはあの方の有です。
(少しく機嫌を直して) さういつてこそ當然です。

イモ

ヤキ

竝の者とあの方が一しよになられると、まるで神さまが天降つて來られたやうです。人間以上の品位があるからです。どうか、お姫さま、御料簡下

さいまし、いゝ加減なことを申しあげましたのを。が、それで以てあなたの御賢明であることが……御自信の如く、全く間違ひなく立派なお方をお見立になつたといふことが……確實にわかりました。つまり、あの方を親友として愛してゐるもんですから、ついあなたを唐箕に掛けて見たくなつたのです、ところが、あなたは世間並の穀類ぢやない、穀はなくつて正粒ばかりです。どうぞ御勘辨なすつて下さいまし。

イモ ヤキ

よろしい。では、宮中の便宜は、わたしが何かと取計らつてあげませう。ありがたうございます。時に、あなたさまに少々ばかり、但し手前に取つては肝要なことをお願い申すのを、すんでの事に忘れるところでございます。それは御主人さまにも御関係のあることです、手前も、他の立派な友人連も其商業に携はつてゐますのです。それはどういふ事です？

イモ

ヤキ

手前から六人ばかりの羅馬人と御主人さまとが……いづれも立派な仲間ばかりですが……醜金をして帝へ献上品をいたすことになりまして、手前が扱ひ人になつて、佛蘭西で品を買ひ調べました、それはめづらしい意匠の金の皿と非常に立派な寶石で、いづれも高價な品でございます。で、旅中の事でもあり、少々心配で、どこか大丈夫な處へあづけたいと思ふのでございますが、えゝ、おあづかりを願ふわけには参りませうまいか？

イモ

ようござんすとも。たしかに、保證してあづかりませう。夫にも關係のある品であつて見れば、わたしの寢室へあづかることにさせよう。

ヤキ

伴の者がそれを大靴に容れて番をしてをります、では、失禮ながら、持たせてよこしますから、どうか、たゞ一晩だけのところを。明日は船へ乗込みますから。

イモ

おゝ、まア、さうおいそぎでなく。

「處女」といふのは昔流行つた一種の投球戯の科語である。最初に投げ出された球を指す。わが國の例でいふと、「親に當る。この「處女」球を目當にめい／＼が球を投げて勝負を争ふのであるが、うまく適中した場合には、それを「接吻」と稱したのである。さういふ場合に、相手方は、接吻させまいとて自分の球を前の球を撥れ飛ばすやうに投げるのが例であつたといふ。

貴一 おかげで奴アえらい目に逢ひました、あなたに球で頭を破られたんですからね。

貴二 (傍白)あの男の智慧が破つた御當人のそのやうに液體でなくつて仕合せだ、若しさうだつたら、其途端に流れ出してしまつたらう。

クロ 紳士が誓言しようとした時に、傍の者がそれに干涉するて法があるか？え？

貴二 ありませんとも。(傍白)感心するて法もありません。

クロ 犬畜生め！ あんな奴ぢやア、決闘するわけにもいかん。あゝ、あいつが、位も、資格も、おれと同等だといふ、になア！

貴二 (傍白)すると、いゝ阿呆が二疋揃ふことになるだらう。

クロ ほんとに、こんな厄介なことはないや。くそツ！ こんな立派な身分に生れなけりやよかつた。だアれもおれとは喧嘩し得ない、妃がお袋だもんだから。どんな下司奴もたらふく喧嘩するのに！ おれは敵手のない軍鶏だ、どこへいつても蹶合ふことが出来ない。

貴二 (傍)軍鶏でもあり、凡手でもあるが、さう空威張をする處は阿呆でもある。

クロ え、なに？

貴二 あなたなんぞは、どんなに相手に怒られても、おかまひにならんはうがよろしいのです。

ク ロ そりや知つてるよ。つまらん奴らアかまひつけないや。

貴二 (皮肉に) それに限りますよ、あなたは。

ク ロ だから、さういつてるんだ。

貴一 あなたは先刻宮中へ異國人が参りましたことをお聞きになりましたか？
異國人が？ どうして知らせなかつた？

貴二 (傍) ヘッ、自分がよつほど異國人の癖に、それを御存知なしか！

貴一 伊太利人が来ましたのです。リオネータスの友達さうです。

ク ロ リオネータス！ 追放された悪黨め！ その来たやつも、だれだか知らんが、きつと悪黨だらう。だれがさういつた？

貴一 お侍童の一人がさう申しました。

ク ロ そいつを見にいつてもいいか？ え、威嚴を落しやしないか？

貴一 なアに、お落しになりやしませんよ。……(傍) それ以上には。

ク ロ 容易にはなア。

貴二 (傍) 正札附きの低能さんだ。だから爲る事の阿呆らしいのは當り前だ、相場附けの狂ひツこはないや。

ク ロ さ、その伊太利人てのを見にいつて来よう。けふ投球で損したのを、そいつで埋合してくれよう。さ、ゆかう。

貴二 お伴つかまつります。……

クローテンと貴族の一と先づ入る。貴族の二だけ残る。

あのお袋のやうな狡猾な女が……一切がつさいを智慧で叩きつけてしまふ悪魔女が、あんな驢馬を産り出すとは！ あの馬鹿息子には、一生懸命になつたつて、二十から二を減いて、あとへ十八残すことさへ出来ないんだ。あゝ、お氣の毒なお姫さん、イモーゼンさま！ 嗚お辛からう、お母さんのいひなり次第のお父さまや、常住なにかわるだくみをする繼しいお

母さんや、お殿さんの追放よりも、怖ろしい離縁沙汰よりも、あなたに取つては厭な、忌はしい、あの馬鹿者の求婚者の間に挟まれて、嘸御難儀をなさるだらう！ 天の神々よ、どうかあなたを操の城郭を護つてあげて下さい。どうか正しいお心の殿堂が毀されませんやうに！ 追放中のお殿さんがやがて赦されてお歸りになつて、あなたが此國のお世繼におなりなさるやうに！

入る。

第二場

王宮内のイモーゼン姫の寢室。

一隅に大靴が置いてある。

イモーゼンは寢室に横になつて、書を読んでゐる。侍女一人黙つて、程よきところに侍してゐる。

イモ そこにあるのはだれ？ ヘレンかい？

侍女 さやうでございます。

イモ 何時だい？

侍女 もうかれこれ眞夜中でございます。

イモ ちや、三時間讀んでゐたのね。目が疲れた。(書を侍女に渡して)讀み止めたところで折つといとくれ。寝ませう。その蠟燭は持つていかないで、さうして點けておゝき。さうして四時に起きられたらね、起しとくれ。……ほんとに眠くなつた。……

侍女 入る。

神々さま、どうぞお護り下さい。
妖精だの、夜の魔物だのからわたくしをお護り下さいませ。

イモーゼン 眠る。

ヤキモー 大靴の蓋を

徐かに開けて出る。

ヤキ

蟋蟀が啼く、すると人間は其疲れ果てた感覚を安眠で償はうとする。むかしタークインは、貞女を驚かして辱めた其前に、ちやうど斯ういふ



風に、そつと葦を踏んだんだ。……

(じつと寝顔を見て) おゝ、ギーナス! どうだ、まア此寝臺に應はしいあてや

かさ! 咲いたばかりの白百合! 此敷布よりも白いくらゐ! あゝ、ち

よつと觸つて見たいなア! 只ちよつと口を。一度だけ接吻を! どう

だ、この無比無類の紅玉が二つ! 互ひになつかしげに吸ひ合つてゐる!

あゝ、此室が如是に佳い香のするのは、此息の故だな。あゝ、蠟燭の火ま

でが此方のはうへ靡いて、目蓋の下を覗かうとしてゐる。青みを帯んで

白いところへ、眞蒼な天色のお飾りの附いた此二つの窓、この窓の中のお

光りさまを拜まうとしてゐるのだ。……だが、おれの目的は、此室の觀察だ。

みんな書き留めておかう。(手帳を出してあたりを見廻しつゝ) あゝ、いふ繪とあ

あいふ繪。あそこに窓。あゝいふ寝臺の飾り。壁代の繪はと……あ

あいふのとあゝいふの。それから、其繪の筋はと……あゝ、何か、其肉

體に生れ附きに持つてゐる特徴を記入しといたはうが、他のつまらん小道具の百萬だらよりも有力な證據になるだらう。……(すつと近づいて)お、汝、死の眞似をする睡眠よ、じつとそこに乗つかつてろ。さうして、姫さん、しばらくの間、拜堂に在る彫像のやうに無感覺になつておいでなさい!

(腕輪に手を掛けて) そらく、どつこい。 (たやすく抜き取つて) ゴオディヤ締びとは全然あべこべに、つるりと脱けた! まづ手に入つた。これが外からの證據品になり、また内からは、奴の心が答めるとすると、あの亭野郎め、逆上せあがつてしまふだらう。……(じつと寢姿を見入つて) 左の胸元に黒子が五つ、まるで九輪ざくらの花底の眞紅の露のやうだ。これこそつひぞ法庭に前例のない證據人だ。此秘密を知つてゐる以上、錠をはづして大切な眞操といふお寶をおれが盗んだに違ひないと、あの男が思はないわけにはゆくまい。 もうよさう。 どうして? これを書いておく必要はな

いや、ちやんと目に沁み込ませて、記憶へ打ち込んであるんだもの。……書に目をつけて、つい今がたまでチーリヤスの物語を讀んでゐたのだな。 フィロメル姫がとうとう心に従がつたといふところで頁が折つてある。……これぞ澤山。 さア、鞆へ戻つて、蓋を閉める。……さア、夜」の車の龍ども、急いで黎明を呼び出して、鴉らの目を開かせろ。……こゝに泊つてるのは恟々ものだ。 天女があるからつて、こゝはおれには地獄だから。(時計の音が聞える) 一つ、二つ、三つ。 時刻、時刻!

鞆の蓋を閉める。 此場が終る。

第三場

イモーゼンの居間に隣つてゐる控への間

クローテンと例の貴族らと出る。

貴一

あなたのやうな辛抱づよい方はございませぬよ、お負けになつても、壹が出て、冷かなお顔附をしていらつしやいます、どうも恐れ入つたことで。(「冷」の意味を誤解して) だれだつて酷く負けりや冷りとすらすら。

クロ

だつて、あなたのやうにお立派に、太ッ腹に御辛抱なさる方はありません。ですが、お勝ちになつたりといふと、また猛烈におなりです。

貴一

勝ちやだれだつて、勇氣が附くからなア。あの馬鹿者のイモーゼンが俺の手に入りや、金も澤山入るのだからなア。……もう大抵朝だらう？ へい、もう明けました。

クロ

貴一

クロ

楽人どもが来ればいゝのに。おれは彼女に朝の樂を聴かせて見ろと忠告されたんだ。きつと效力があるだらうといふんだ。……

楽人連出る。

さア、やつてくれ。汝たちが弾いたり、撥いたりするので彼女がいふ

ことを聴くやうなら上等だ。舌も使つて見ようぜ。それでも駄目なら、うツちやつとけ。だが、おれは止めやしないぞ。まづ、うんと思ひ附きの佳いのをなア。それから、非常に面白い曲をなア、素敵に立派な文句の附いてるやつを。それで以て彼女に御斟酌をさせるんだ。

楽人連が樂器を調へて、歌ひはじめる。

(歌)

あれ、雲雀が空で啼く、

はやお出ましぞ太陽神は、

お馬の水かふ泉水は

猪口の形の花の露。

まだ眠たげな金盞花

やつと開いた黄金の目。

綺麗な物は御意次第、

さア〜、ひんなれ、お姫さん。

ひんなれ、ひんなれ。

ク ロ それでいゝ。 歸れ。 これが役に立ちやア、汝らの音楽をもつと御斟酌に及んでやるぞ。 けれども駄目なやうなら、彼女の耳がどうかしてるんだ、馬毛や仔牛の腸管や石なし男の聲まで使つて効力がないのだから。

樂人ども 會釋して入る。

貴二 (一方を見て)あ、王がおいでになりました。

ク ロ ちやうど濟んでよかつた。 だらうと思つたから、早く起きて來たんだ。

おれが斯うして骨折つてゐるのを見たら、そこは親だ、うれしがらう。

……

シムメリン 王と妃と出る。

シム 御前、御機嫌よろしう。 お母さまにも。

ク ロ 剛情者を見舞に來てゐるのか？ 彼女は出て來んかね？

シム 音楽で責めかけて見ましたが、まるで知らん振です。

愛人をつい此間追放したばかりだから、まだ忘れ得ないのだらう。 時が

經てば、其記憶の印跡が消えるに相違ない。 さうすれば彼女がお前の有

になる。

妃 有りがたくお思ひなさい、王はいろ〜とお心をお盡し遊ばして、姫をお前に添はせようとしておいでになる。 お前もちやんと方針を立て、い

い機會を見計つて、いひ寄つて御覽なさい。 ことわられたら、尙と熱心に

なつてね、彼女に深切を盡す義務を天から命ぜられてもゐるやうに。

何でも彼女のいふことに逆はないはうがいゝ、けれども「歸れ」とか「來る

な」とかいはれた時だけは、わざとぼかんとしておいでなさい、馬鹿になつ

てね。

馬鹿になつてゐるなんて、僕にやそんなことは出来ない。

使者役出る。

使者

申しあげます、羅馬からのお使者でございます。ケイヤス・ルーシヤスと申されます。

シム

そりや立派な仁だが、けふ来たのは不穏な目的があつての事だ。併しそれは彼れの罪ではない。羅馬帝を代表して来たのだから、相當の禮儀を以て迎へなければならん。また、舊恩もあることだから、特に歡待する必要がある。倅、お前は姫へ朝の挨拶をすましたら、妃とわしのところへ来てくれ。羅馬の使者の應待役をして貰はねばなるまいから。……さ。妃。

クローテンだけ残りて皆入る。

クロ

起きてたら、話して見よう。けれども寝てゐりや、そのまゝにして夢を見

させておかう。(扉を叩いて)おうい、御免なさい!……腰元どもがゐる筈だ。あいつらに握らして見たら、どうだか? とかく門を開けさせるのは金だ。さうだ、清淨神の杜の番人だつて、金で買はれりや、鹿盗人の手引をもする。正直者が殺されて盜賊が助かるのも金だ。いゝや、どうかすると、善人も悪人も一しよくたに絞罪に處せられる。物を出來すのも、破壊すのも金だ! 腰元の一人を辯護士に頼まう、おれにはまだ訴訟事がよく分らんから。(又叩いて)御免なさい!

侍女一人出る。

侍女

お叩きになるのは、どなた?

と扉をあける。

クロ

紳士だ。

侍女

それツきりですか?

クロ うん。それから、貴婦人の息子だ。

侍女 ちや、他のお方よりはお偉いのね、同じやうに仕立屋に高くお取られなすつても……どういふ御用でございますの？

クロ お姫さんにお目にかゝりたいのだ。いゝかい今？

侍女 (わざと空とぼけて) はい、いゝ、鹽梅に御寝なつてゐす。

クロ (金を出して) この金は君にやるよ。これで以ていゝ具合にしてくれ。

侍女 え！ いゝ具合にですッて！ だれをです？ わたしを？ あなたを？

……

イモーセン 出る。

あら、お姫さまが！

クロ (イモーセンに) お早う、今日は。ねえ、手を。

侍女 入る。

イモ (無愛想に) お早うございます。苦勞をお求めになるばかりですのに、大變

にお骨折下さるのねえ。けれどもお禮は申しかねますのよ、お禮の貯へ

なんか些もないのですから。

クロ でも僕は、やつぱり、あんたを愛すると誓ふよ。

イモ さア、ちよつと、おつしやつたのなら、わたしもちやうどそのくらゐと申

しますけれど、やつぱりとおつしやれば、わたしもやつぱり平氣ですのよ。

クロ そりや返辭にやならん。

イモ さア、實は、何にも申したくはないのですの、黙つてゐれば承諾だとさへお

思ひにならなければ。濟みませんけれど、わたし、あなたの最上の御深切

に對して、それと同等の御無禮を致さないわけには参りませんの。ねえ、

あなたのやうな物識りのお方は、これだけ申したなら、もうお止しになる

でせう。

クロ あんたは氣がちがつてゐるらしいから、うツちやつていくわけにはいかな
い、不道德になるから。

イモ 阿呆の手ぢや氣ちがひは治されなくなつてよ。

クロ (氣色ばんで) え、僕を阿呆だといふの？

イモ わたし氣ちがひだから、さういふの。あなたがお止しになれば、わたしだ
つて正氣になります。つまり、二人とも病氣が治るのです。つい行きが
かりで、女のたしなみを忘れて、露骨に申し過ぎたのは不本意ですけど、
どうか此後御承知おき下さい、わたしは此眞實な心に誓つて、あなたを好
かないと明言します、のみならず、博愛のお教へを忘れたやうで濟まない
けれど、憎いと思ひたいくらいです。こんなことは、口へ出してはいはない
で、あなたにさう感じていたゞきたかつたのです。

クロ あんたは親不孝をしてゐます。なぜかといふに、あんたは女の男と夫婦

の契約をしたといふけれど、あいつは宮中の餘り物やお布施を貰つて生き
てゐた奴なんだから、其約束は無効です。下等社會では……あいつより
下等な人間はないとはいへるけれど、……親が許さないのに、乞食の餓鬼
を生むより外にどういふ當もなくつて、夫婦約束をすることもあるんだけ
れど、あんたにはさういふ自由はない。王位を相續しなけりやならんか
らだ。あんな下司奴と、若黨の制服を着せられる傭人と、臺所係りほどの
身分もない奴と一しよになつちやア、身分の汚れになるからだ。

イモ まア、何といふ口ぎたない！ お前なんぞは、たとひ天神の子であつても、
今の身分の外にどういふ長所もない以上、夫の馬丁にだつてなれません。
お前は、生得の才能からいへば、絞罪係りの下役にされたつても、人が嫉み
憎むほどの破格な立身です、分に過ぎてゐます。

クロ あいつめ、南の沼の毒で腐ツちまやアがれ！

イモ さう口でいへるばかりよ。それ以上のどういふ災ひをも夫は受けません。夫の肌をには觸ふれた以上は、どんな粗末な上被うはぎでも、わたしに取とつては、お前の頭髪かみのけよりも、其頭髪そのかみのけの一筋一筋ひとすぢひとすぢがお前まへと同等どうとうの人間にんげんになつたよりも貴たつといのです。……おうい、ビザニオ!

ビザニオ 出る。

クロ (齒はぎりりして) あいつのどんな粗末な上被うはぎでも! 畜生ちくしやうツ!……

イモ (ビザニオに) 腰元こしもとのドロシーのところへ、あの、急いそいでいつてね……

クロ あいつのどんな上被うはぎでも!

イモ (ビザニオに) 阿呆者おほうものに附つきまとはれて、おどされて、腹はらまで立たたせられました。附つきの者ものにさういつて、どうしてだか失なくしたわたしの腕輪うでわをさがさしとくれ。あれは夫をの形見かたみですから、歐羅巴ヨーロッパのどんな王國わうこくの富とみに易かへても、なくしては大變たいへんです。けさは、見みたやうなの。ゆうべも慥たしかにはめ

てゐたわ。接吻くちづけをしたもの。よもやその事ことを夫をに告つげ口ぐちをしにいつたのぢやあるまいし。

ビザ おなくしになつたのぢやアごさいますまいよ。

イモ わたしもさう思おもふけれどね……往いつてさがして見みとくれ。

ビザニオ 入いる。

クロ (くやさしさうに) あんたは酷ひどいことをいふ。あの男をとこの「どんな上被うはぎでも」なんて!

イモ はい、さういひました。若もし訴訟そしやうをお起おこしなされるなら、證人しょうにんをお立たてなさい。

クロ お父とうさんにいひつけてやる。

イモ あなたのお母かあさんにもね。あの方はわたしを可愛かほひがつて下くださいますからよもやわたしを一等とうわるくより以上いじやうにはお思おもひなすつては下くださるまい。

ぢや、どうぞ御機嫌わるう！

入る。

クロ
（齒ぎしりして入りながら）うぬ、仕返してくれるぞ。「どんな粗末な上被でも」！
よしッ。

入る。

第四場 羅馬 ファイラリオの家

ボスチエーマスとファイラリオと出る。

ボス
御心配なさるな。だが、王に關しても、妻の貞操を信じてゐる程度の確信がわたしにあるといふのだけけれど。

ファイラ
で、どういふ手段を講じようといふのです？

ボス
どういふ手段もないのです、時機を待つ外には。此冬季の間はふるえてゐて、春暖になつたらと願ふのみです。さういふ萎びた望みだけでは御深切の報いにはなりかねるのです、若しその望みがはづれれば、死ぬまでも御恩が返されないのですから。

ファイラ
わたしをした事なんざア、あなたに交際してたいたいで、もう十分帳消しになつてゐます。今頃はもうお國の王さんがオーガスタス帝からのお使ひのケイマス・ルーシヤスに會つて、使命の一切をお聴きになつた頃だらうが、わたしが思ふには、多分、貢物の事は御承諾なすつて、残り金をば納められませう、よもやわが羅馬に敵たふやうなことはなさるまいで、まだ辛い目に逢ひなすつてから程がないのだから。

ボス
いや、わたしは、きつと戦争になるだらうと思ひますね、わたしは政治家で

なく、また將來とても、さうなりさうにない男ですけれど。ゴリーヤ(後の佛蘭西國)に今ゐる軍隊は、一錢だつて王に貢物を納めさせるよりはと、曾て敵を怖れないブリテインの本國へ馳せ戻つて、すぐさま軍備に及ぶでせう。國の者は、むかしジュリヤス・シーザーが其技倆の鈍いのを嘲りながら其慄悍に恐れをなした時分よりは、ずつと秩序立つて訓練されて、勇氣と技倆とを兼ね備へてゐます。だから、ぶつつかつて試験して見りや、彼等は進歩向上する人民だといふことが解りませう。

ヤキモー出る。

フィラ

おや！ ヤキモーですぜ！

ボス

一等早い鹿にでも騎ツかつて旅をしたのかね君は？ また、海へ出ては、八方の風を帆に孕ませて、思ひつきり船を走らせたのだらうねえ。ようお歸りでした。

フィラ

ボス

返辭は一言で済むんだから、それでお歸りが早かつたんでせう。

ヤキ

あなたの奥さんは、實際、わたしが見たうちの最も美な御婦人の随一人ですよ。

ボス

のみならず、最も貞淑な女でせう。若しさうでなけりや、彼女をして窓から其美貌を曝させます、さうして世間の不義者を誘惑させて、勝手に不義を働かせます。

ヤキ

あなたへのお手紙を持つて來ました。

ボス

無論、いゝ便りでせう。

ヤキ

でせうよ。

フィラ

君があらにゐた時分に、ケイヤス・ルーシヤスがブリテインの王宮へ見えてゐたかね？

ヤキ

噂はありましたが、まだ見えてゐませんでした。

ボス ちや、まだ無事だね。……ねえ、例の寶石はまだ光つてますか？ もう持つてるのが厭になつてやしませんか？

ヤキ 若しもあの指輪を取戻されるやうだと、ちやうどあれだけの金額をわたしは損しなけりやならなかつたのです。……が、わたしはもう一度プリティン通ひをしますよ、短かゝつたけれど、あの一晚の愉快は忘れられないからね。……あの指輪はわたしの有ですよ。

ボス いゝや、あの石は堅いからね、ちよつとお手には合ひがたいでせうよ。

ヤキ なアに、奥さんは二つ返辭でしたよ、

ボス (真面目になつて開き直つて) 戲言はいゝ加減になさい。失敗なすつた以上、もう友達ではない筈です。

ヤキ いゝえさ、友達でなくつてさ、あなたが違約をなさらん以上。もしもわたしがあなたの奥さんと懇ろしたといふ證據を持つて歸らなかつたら、更に

ボス 論判に及ぶ筈でしたが、實際わたしは奥さんの御名譽を頂戴して來たんです、だからあの指輪も頂戴したわけです。かといつて、それはあなたがたと合意の上なんだから、あなたがたを辱めたことにはならない。

ボス その證明が出來りや、握手します。……指輪は君の有です。(やゝせきこんで) が、出來なければ、妻の汚された名譽を回復するため、君か、わたしか、どちらか、劍を失するのだ、でなきや、二人の劍が共に其主を失つて、他人の有になつちまふのだ。

ヤキ (おちつき拂つて) これからくはしくお話をしますが、それはそつくり事實なんだから、信じなさらないわけにはいくまい。なんなら、念のため、誓言をしてもいゝが、まアそれにや及ばないとおいひなさるだらう。話してるうちに其必要のないことが解るだらうから。

ボス (多少せき込んで) お話しなさい。

ヤキ 先づ、其寐間は……實は、まるで眠ないで、夜通し見覺えて來たんだ……先づ、壁代は絹地へ銀絲の刺繡、圖は驕慢なクレオパトラがアントニーに會つたところで、キドナスの河浪が高々と岸へ打寄せてゐる、船に押されてか、自慢してか。いや、どうも、物も立派、細工も素敵、どつちが上ともいへない代物、まるで何もかも生きてるやうに、上手に刺繡つてあるので以て、わたしはもう實にどうも……

ボス その通りだ。けれどもそんなことは、わたしからでも、他の者からでも、幾らも、こゝにゐても、聞かれることです。

ヤキ いや、まだ他にいろいろあります。だから證據になりますよ。

ボス ならんけりや君の名譽に係る。

ヤキ 寐間の南側に暖爐があつて、其周辺の彫刻は水浴をしてゐる月神で、今にも物をいひさう。わたしはあんなのは始めて見た。あの彫師は第二の

自然です、物をいはないばかりだ、自然以上だ、動きと息がないばかりです。

ボス それも人傳に聞けることです、折々噂されてゐたことでもあるから。

ヤキ 寐間の天井は黄金色の天童の浮彫です。つい言ひ忘れたが、炭架は銀製のキュービッドで、二體とも一本脚で立つて、いゝ格好に、例の松明へ倚れかかつてゐました。

ボス (冷笑して) 彼女の名譽てのはそれだけですか！ 假にそれらを悉皆御覽だつたとしよう……君の記憶力を讚美しませう……けれども室内の模様だけちやア君の賭物は助かりませんよ。

ヤキ ちやア、これを見ても (と腕輪を一寸出しかけて) 平氣ですか？ ちよつぶり此寶石に風をあてさせて貰ひます。(わざと片影だけを見せて) そらね！ どつこい！ (と又かくして) お閉帳です。こいつはね、あのダイヤと夫婦にせんけり

ヤキ

誓天神！ 奥さんが自分の手で脱してよこしたのですよ。

ボス

(フライリオに) あれ、あの通り、誓言までしてゐる、誓天神だつて！ 事實に違ひない。……(ヤキモーに) ぢや、指輪は返さなくてもいい。……事實に相違ない。 落す筈はないから。 腰元だつて、みんな忠實でさうして正直なんだから。……頼まれて盗むなんて、而も外國人に！ ……いや、きつと、手に入れたらんだ。 彼女の不しだら紋章が彼品だ。 淫賣といふ名前を斯うして高い値段で買やアがつたんだ。……そら、これが賃銀だ。……地獄にゐる限りの悪魔め、おのれら二人に取ツついてくれ！

半狂亂のやうになつて煩悶する。

フライ

まア〜、まア〜！ それだけぢや、まだ十分の證據とはいへないぢやないか？ 君が若し奥さんの貞節を……

ボス

もう聞かん、もう聞かん。 あれは玩弄にされたに相違ない。

ヤキ

もつとたしかな證據をとお望みなら、そら、奥さんの胸んとここに……あのぼつちやりとした、氣持のいゝ乳のすぐ上に……黒子がありまさ、いかにも自慢さうに、處得がほに乗ツかつてまさ。 わたしはそれを思ふ存分に接吻したんですよ、全く。 でもね、又すぐに二度も三度もいふ風に、壓くどころぢやなくつて。

ボス

(絶望的になつて) うん、もう他に何にもなくつたつて、それ一つで以て地獄が一ぱいになつちまふやうな大汚點のあつたことが定つた。

ヤキ

(冷かに) もつと竝べませうかね？

ボス

(激して) 計算しなくつてもいい。 した事を一々數へるにや及ばん。 一度が百萬遍だ！

ヤキ

(いよく冷静に) わたしは誓言するが……

ボス

(ますます激して) 誓言には及ばん。 若し君が、さうした覚えはないなんぞと

誓言するやうなら、君は嘘を吐くんだ。今更おれをちやうさい坊にした覚えはないなんぞといつて見るが、生かしちやおかんから。

ボス ヤキ

そんなことはいやしませんよ。お、あいつがこゝにゐりや、八裂にしてくれるのに！ うぬ、歸つてつて、宮中で、親父の目の前で、やっつけてくれる。今におのれ……

半狂亂の體で怒り



罵りつゝ入る。

フィラ

ヤキ

まるで夢中だ！……（ヤキモーに君の勝ちだ。……従いてつて、どうかして氣を轉じさせよう、あの自棄になつてゐるのを。賛成です。）

二人とも入る。

第五場

フィラリオ宅の他の一室

ボス チューマス 苦悶しつゝ出る。

ボス

女が手傳はなけりやア人間は生れることが出来るのか？……男はみんな父なし兒だ。おれが親父と呼んでゐた老人なんかも、おれが鑄造された

時分、どこにゐたか知れたもんぢやない。だからおれはだれかの手で贗造された貨幣なんだ。でもお袋は其時分の清淨女神で通つてゐた。ちやうどおれの妻が現代無比の貞女であるやうに。お、この仕返しを、この仕返しを！ 彼女は夫たるおれにさへ、正式の婚禮を濟さないうちはなぞといやアがつた癖に、老いぼれたサタア神にだつて、つい情を起させさうな、可愛い、恥かしさうな顔附をしてゐやアがつた癖に！ まだ陽の當らん朝の雪のやうに清淨だと思つてゐたのに！ あ、おれの此體のどれだけが女から貰つたのだらう？ 惡徳は、きつと悉皆女の遺傳だ。男にはわるい性質は決してないのだ。嘘を吐くのは女の遺傳だ。おベツかる、それも女のだ。だます、それも女だ。淫慾だのみだらな根性だの、それも女だ。復讐心、それも女だ。野心、貪欲、いろく々な自慢、高慢、人をさげすむ、つまらん物を欲しがらる、わる口をいふ、始終氣が變る、そ

れもこれも、ありとあらゆる過失は、いや、地獄に知られてゐる限りの惡徳は、或は半分、或は悉く女の遺傳だ。その惡徳をすらも奴らはじつと一つだけを保つちやゐないで、殆ど一分毎に取ツかへ引ツかへしてゐる。おれは特筆して女といふ者を卑しめ、憎み、呪つてくれる。だが、奴らに勝手な事をさせるやうに祈つたはうが、最も巧みに彼等を憎む所以かも知れない。惡魔だつてそれ以上彼等を苦めることは出來ないだらうから。

はひ 入る。

His impression of your name
of Mr. Vanita

第三幕

第一場 プリテイン王宮の大廣間

シムベリン王、其妃、クローテン及び貴族が一方から出ると、他方から羅馬帝の使節、ケイマス・ルーシヤスと其従者らが出る。

シム
ルー

では、オーガスタス帝の御要求の次第を承はりませう。

今尙衆目に其記憶を留めて、世の話柄とも相成つてをられる所のわがジュリヤス・シーザーどのが、當プリテイン國を征服せられたる際、其拔群なる功績を御稱讃あつたために有名なる其許の叔父御カッシペランどのは、其

妃

砌、シーザーどの並びに其相續者に對して、年々、羅馬へ三千ポンドの貢金を獻納せらるべき旨を誓約せられた、然るに、近年に到り、之を等閑にいたされたは、そもくいかなる次第であるか……

(急にさへぎつて) さア、その御不審を根絶し致すために、以後とても長く同様に取扱ひませう。

クロ

第二のジュリヤスが出るまでにや、まだ大分シーザーがつくだらう。プリテインは獨立國だ。めい〜が顔に鼻を乗ッけてるからッて、其鼻の代を他人に支拂ふ筈はないや。

妃

昔はわれ〜から貢物を取立つべく敵方に屬してゐたあらゆる便宜が、今はそれを取返すべく悉く此方に屬してゐます。(王に)もし、御前、御先祖の王たちのお働きをお忘れなさいますな。また此島が天然の要害であることをお忘れなさいますな。周圍は一面の荒海、絶壁の肋、まるで海龍王の

庭園も同然です。其上に、敵が来れば、忽ち其船を顛覆して、帆柱ぎはま
 で吸ひ込んでしまふ怖ろしい流砂もあります。あのシーザーは、一應はわ
 が國を征服したかにも見えますけれど、「来て、見て、勝つた」といふ高言を
 さすがに爰では言ひかねました。彼れとしては、前例のない恥を掻いて、
 二度までも海岸から逐ひ戻され、其ひきゐる軍艦は、土地不案内のために、
 玩具も同然！ 岩に觸れて卵の殻のやうに微塵になつて、荒浪に漂つた。
 其勝軍のお祝ひにとて、有名なカッシペランさまは……シーザーと一騎打
 して、あゝ惜しいことに、つい打洩しなされたさうなが……あのラッヅタウ
 ンを夜通し花火で晝のやうになされましたので、勝ち誇つたブリテイン人
 は勇み立つて、肩を怒らし、大股に歩き廻つたといふことです。……
 (横合から口を出して)もう貢物なんかア納めないぞ。 此國は、昔とちがつて、
 強くなつてゐるんだ。 今もいつた通り、あんなシーザーはもう二度と出やア

クロ

しない。 鼻は今でも同じやうに曲つてゐるかも知れんが、もうあんな腕の
 眞直な奴はゐやしないんだ。

シム

(制して)まア、母さんに後をいはせろ。

クロ

(それにかまはず)今だつて此方には、カッシペラン王に劣らん強い腕力の者が
 幾らもゐるんだ。 おれが其隨一だとはいはないけれども、とにかく腕は
 有つてゐる。 貢をなぜ納めるんだ、何の爲に？ 若しも羅馬帝の力で太
 陽をブランケットにくるんだり、月を衣囊へ入れたりして世の中を昏闇に
 することが出来りやア、明りの欲しさに納めるかも知れんが、でなきや、ま
 ア御免だ。

シム

(ケイヤスに) 横暴なる羅馬人によつて貢物を強要されたまでは、わがブリテ
 インは不羈自由の國であつたのです。 全世界をも克服しようといふ大野
 心のシーザーであつたが爲に、理不盡にもわれ／＼に鞭を掛けたのだが、

苟も勇敢を以て自任する國民である以上、それを脱却するのは當然の事
である。と御承知下さい。

（聲を揃へて）其通りです。

シム

では、オーガスタス帝に復命なさい、わが國憲は夙に太祖マルミューシヤス
によつて制定せられてあつたのだが、シーザーの兵力の爲に甚しく破壊せ
らるゝに至つた。が、権力が吾々にある以上、それを修復して再び實施に
及ぶのは當然のことであつて、之が爲に羅馬の怒りを招かうとも、敢て願
る所でない。マルミューシヤスはわが國憲の制定者で、はじめて黄金の
冠を戴き、ブリテインの最初の王と呼ばれた人である。

ルー

シムベリンどの、ではお氣の毒ながら、其許の御家來の數以上の列國王を
臣下扱ひにしてをらるゝ、オーガスタス帝が其許の敵となられるといふこ
とを宣言しますぞ。とくとお聞きなさい。シーザーのお名の下に、直ち

に激戦を開始します。其勢ひ當るべからざる猛兵の來襲に及ぶのをお俟
ちなさい。……これで挑戦の役目を終ります。

シム

（態度を改めて）ケイヤスどの、よくこそおいで下された。御主君のシーザー
どのは嘗て手前に士の爵を授けられた、で、青年の頃は、久しくお傍仕へを
いたして、何かと榮譽を賜はつたのであるが、今更それを強ひて取上げよ
うとせられる以上、此方も死物狂ひで、奪られまいといたさねばならん。
パノニヤ人やダルマシヤ人も、其自由を恢復するため、兵を擧げたといふ
ことを慥かに聞きました。其前例に教へられないやうなら、わがブリテイ
ン人は無神經だが、さうではないといふことを、今にシーザーが覺られる
であらう。

ルー

その當否は實験に俟ちませう。

クロ

（ルーシヤスに）王があんたを歓迎しろといはれます。

一日か二日、又はちつ

と長く、われ／＼と一しよにお遊びなさい。他日、ちがつた條件でお相手になる時分には、荒海といふ腰帯を締めて出掛けます。それをあんたがぶつばづしやアあなたの勝ちだが、やりそこなやア、此國の鴉どもがあんたのお底で肥るでせう。それでお終ひです。

ルー

シム

御主君の意志はよくわかりました。手前の意志もよくおわかりでせう。残る所は只「ようこそ」の一言です。

皆入る。

第二場 王宮の他の一室

ピザニオ、讀みながら、手に一通の書状を持つて出る。

ピザ

え！ 姦通ですって？ どうしてそんな無法なことをいふ者を化け物だここににお書きにならないのです？ リオネータスさま！ お、旦那さま！ 何てまア怖ろしい毒藥がお耳の中へ流れ込んだのです！ どうしてまアそんな手も舌も不義非道な伊太利人なんぞのいふことを輕々しくお信じになつたのです？ 不貞實ですって？ とんでもないことを！ 奥さまは御貞實過ぎる爲に罰をお受けになつて、並の貞女ならとうに參つてしまふやうな苛責を、人間ではなく女神さまかと思ふほど、引ツこたへておいでになります。お、旦那さま！ あなたの御料簡は低い、卑しい、…以前前の御身分のやうに。え！ わたくしに奥さんを殺せッて？ 何でもお吩咐通り忠義を盡しますとお誓ひしたとおつしやるのですか？ あの、わたくしに奥さんを？ 殺せ？ 若しそれが忠義であるなら、どうかわたくしを忠義者でないと思つて下さい。…よつほどおれは人相がわるいか知

らん、こんな酷い役をいひつけられるといふは……(讀む)「實行してくれよ。手が彼女に送れる手紙によりて彼女が汝に命することあるべきが、それぞやがて汝に其機會を與ふべければなり。」お、いまはしい此紙！ 此黒汁の色よりもおそろしい計！ こんな無感覺な紙片一枚が悪計の荷擔人、而も其外面はまるで處女か何ぞのやう！……(一方を見て) おや、おいでになつた。何にもいひつかつちやゐないやうな顔をしてゐよう。

イモーセン出る。

イモ

おや、まア、ピザニオ！……

ピザ

奥さま、お殿さまからのお手紙でございます。

イモ

だれから？ お前の殿さまから？ といへば、わたしの夫のリオネータス

さま！ (手紙を受け取つて) 若しわたしが此字を知り抜いてゐるほどに天文を知つてゐる星學者があつたなら、其人はどんな未來をも豫言すること

の出来る大學者であらうねえ。……(封を開かうとして) お、諸の善い神々さま、こゝに書いてあることは、どうぞ深い愛情でありますやう、夫が無事で息災で満足してゐるといふ消息でございますやう！ けれども別れてゐることだけは、歎かせて下さい、或歎きは樂になります、逢はれぬを歎けばこそ相思ふ心が尙と健かに保たれますから。けれども其他は何もかも満足してをりますやう！ ……封じ蠟よ、お免し。此秘密の錠を製つてくれた蜂たちに天のお恵みの降りますやう！……だが同じ封じ蠟を使つても、高利を借りる人達は斯ういふお禱りはしますまい。彼等は其金を濟さぬ時は、お前の故で監獄へ入れられる、けれども戀の覺え書きは、お前の力で、其秘密が保たれる。……どうぞ吉い便りでありませうやう！……(開封して讀む) 「御身の父王の領内にて捕へられ、其激怒に觸るゝとも、敢てそれを苛酷とも思はざるべし、若し、お、わが最愛の妻よ、若し御身が來り見えてわれ

を慰安あんしくれられなば！ 予よは今いまカムベリヤなるミルフオオド・ヘーヴンに
來きたりてあり。これを讀よみて後のち、御身おんみの愛情あいじやうの指示しじする所に隨したがつて進退しんたいせ
らるべし。あらゆる幸福かうふくを御身おんみの爲ために祈いのりて、誓約せいやくを守まもるといよく忠ちゆう
誠せいに、愛情あいじやうを加くはふるとますく切せつなる。リオネータス・ボスチューマス。
お、翼はねのある馬うまがほしい！ ……ピザニオ、聽きいてゐてリ。夫おつとはミルフ
オド・ヘーヴンにおいてなのよ。讀よんで御覽ごらん。どのくらゐ遠とほいところ？ つ
まらない用ようで並なみの者ものが一週しゅうかん間で往いくところなら、わたしが走はしつたら一日いちじつで往
かれさうなもの！ ピザニオや、お前まへだつて、わたしとおんなじやうに、殿との
さまに逢あひたからう……わたしとおんなじに……いゝえ、そりや言いひ過ぎ
です、おんなじといふことはない、ずつと劣おとつてるわね、どうしておんなじ
なことが！ わたしはずつとく何なんだもの！ まあさ、早はや口に返辭へんじをおし。
戀人こひびとの相談さうだん對手あひてといふものは、耳みみが、かんとしてしまふほどに、おつかけお

つかけ物をいふものなの。え、その嬉うれしいミルフオオドまでは何里なんり？ ど
のくらゐ？ ねえ、どうしてウェールズには、そんな有ありがたい結構けつこうな港みなとが
あるんだらうねえ？ だが、それよりもねえ、ま、どうしたらこゝから脱ぬけ
出すことが出で来るだらう？ それから歸かへつてくるまでの間あひだを何なんといひわ
けしたらいゝだらう？ だが、まづ、どうして出でようねえ？ いひわけは
出でてしまつてから考かんがへてもいゝ。あとで相談さうだんすることにしませう。ね
え、一時間じかんに馬うまで何十哩なんマイルぐらゐ馳はしれてリ。
まあ、奥おくさまなら、日ひが出て入はいりますまでに、二十哩マイルならたつぷりでござい
ませう。(傍白) たつぷり過ぎるくらゐだ。
まあ、刑場けいちやうへ馬うまに騎のつて行く者ものだつて、そんなに緩のろくはないだらうに。競けい
馬ばの馬うまなんかは砂時計すなどけいの砂すなよりも速はやいといふぢやないの？ だが、そんな
ことをいつてゐる時ときぢやアない。附つきの者ものに假病けびやうをつかはせて、急きふに里さと

へ歸るといひせて、急いで騎馬服を持つて來とくれ、平人の家内が着るやうな粗末なのを。

ピザ

奥さま、まア、ようお考へになつたがよろしうございます。

イモ

わたしは、前を見てゐるばかりなの。こつちも、そつちも、後の事も、只もう朦として見通せやしない。……ねえ、早くよ、いひつけた通りにおし。もう何にもいふことはない。ミルフオオドのはうへ往くばかりよ。

入る。

第三場

ウェールズ國

山手の地

一隅に窟がある。

窟から白髪の老人ベラリヤス（シムベリン王の舊臣、今はモオガンと名宣つて、二十年來此窟に住んで、野獸を獵して生活してゐる）

が出る。と、それについで二人の青年が出る。兄はギテリヤス、弟はアーボレーガス。二人ともシムベリンの王子なのだ。幼少の際にベラリヤスに盗み出されて此山國で養育され、名も兄はボリドーア、弟はカドナルと呼び換へられ、ベラリヤスのモオガンを實の父だとばかり思つてゐる。

三人とも獵に出る身支度をして、おの／＼手に武器を携へてゐる。

時刻は早朝である

ベラ

（窟から出ながら）こんな低い天井の家に住む者が引籠つてゐる日ぢやアない。好い日だ！…… 踏んで出な、……此出口は自然と天を崇めることをお前たちに教へて、朝のお勤めの禮拜をさせる。國王の宮殿の入口なんざア、高い圓天井になつてゐるから、汚はしい頭巾をかぶつた大男どもが、太陽にお早うをいはないで、のさばり出る。……御機嫌よう、大空さま！ わた

くしどもは賤しい者ではありませんが、世間の驕慢な輩のやうに天恩を忘却してはをりません。

と禮拜をする。

ギデ

(同じやうに拜をして) 御機嫌よう、大空さま！

アギ

御機嫌よう、大空さま！

ペラ

さ、これから獵だ。あの山へ登んな、お前たちは若いから。おれは此平地を行く。上から見おろすと、おれが鴉ぐらゐに見える、其時、考へなさい、物が小さく見えるのも、大きく見えるのも、つまり位置だてとを。さうしておれが折々話した朝廷の事や諸侯の事や軍略なんて事を思ひ出して見なさい。あゝいふ忠勤は、どんなに盡して見たところが、認められない以上、何にもならないてことを。さういふ風に合點すると、見る物悉くから利益が得られる。さうして折々は、甲蟲のやうが大きな翼のある鷺より

も安全だといふことが悟られて、思はずも微笑まれる。おゝ、かういふ生活のはうが、勝手な叱言を聞かされつゝ追従をするよりも高尚だ。賄賂を取るばかりで何一つせぬ奴らよりも裕福だ。借倒して絹布を着てあるく手合よりも立派だ。さういふ手合は仕立屋のお庇で身装だけは綺麗だが、借りはいつまでも帳消にならない。こちらとのに比べると、生活ぢやアない。

ギデ

あなたは經驗からさういふんだが、雛兒の僕らはまだつひぞ此巢の見えない處へさへも往つたことがない。餘所へ往きや此空氣がどんなだか、それをすらも知らない。或は斯ういふ生活が一等いゝんでせう、若し平穩な生活が一等いゝとすれば、險惡な生活をして來たあなたには、これが愉快でせう、もう手足が不自由なんだから。けれども僕らに取つては、何にも解らない穴藏さまひです。寢床の中でばかり旅行してゐるんです。借

アギ

金で牢へ入れられた人のやうに、一步も踏み出すことが出来ないのです。僕らがあなたぐらゐの齡になつたら、何を話の種にするでせう？ 薄昏い十二月の、雨風の激しい、凍りつくやうな晩に、此狭い洞の中で、退屈でたまらん時に、何を話すだらう？ 何にも見ちやゐない。まるで獸類だ、餌食を取ることは狐のやうにすばしこいし、食ひ物にかけては狼のやうに猛烈だけれど。勇氣といつても、逃げるのを追つかけて狩るに過ぎない。歌をうたつて樂むといつても、籠の鳥だ、自由に飛びあるけなない運命の讚美歌をうたつてゐるのだ。

ペラ

何を馬鹿なことを！ 都會の高利生活といふのを經驗させて、それを身に沁みさせてやりたい。續けるも、止すも、共に困難な朝廷勤めといふものを。其頂上まで登りつめれば、定つて滑り落ちる、落ちやせぬかと思ふのが、落ちるも同様の苦みだ。それから戦争の苦勞、名譽のためとは名ばかり、只もう危険を漁つてゐるやうなもの、漁つてゐるうちに死んでしまふと、後には、どうかすると、悪名が其功績と共に残る。いや、大概は、手柄がありながら認められない。もつとわるいものになると、おめく悪名を負はされてしまふ。……お、子供らよ、おれの履歴が取りも直さずそれだ。此體は羅馬人の劍の痕だらけ。おれの名は昔は第一流の人達をも凌いだものだ。シムベリン王に愛せられ、勇士の尊が出来るたびに、すぐ引合ひに出されたものだ。その頃のおれは、枝もたわゝに實つてゐる果の木といふ有様。處が、或晩、暴風が、盜賊が、いや、名は何と附けてもい、其熟し切つた生り物を、いや、葉までも振り落して、おれを眞裸にしてしまつた。恩寵も當にならんものだなア！

ギデ

折々はなした通り、おれは全く正直で、何にも罪はなかつたんだが、二人の悪者が、おれは羅馬人へ内通をしてるとシムベリン王へ讒言したので、追

ペラ



放され、此二十年といふもの、此
 巖や此邊だけをおれの世界にし
 て、正直に、氣樂に日を送つて、天
 へ對してのお勤めも、前半生より
 は餘計にした。……だが、もう山
 へ往かう！ こりや獵人には似
 あはん話だ。……真先に獲物をし
 た者が今日の旦那さまだぞ。外
 の二人は給仕人になるのだ。か
 うしてありや、榮花をしてゐる手
 合とはちがつて、毒を飲む氣づか
 ひはない。……谷で一しよになら

う。

ギデリヤスとアレゴレーガスは老人に別れて入る。

ペラ

(見送つて) あゝ、自然の火花は隠し切れんものだなア！ 國王の子だといふ
 ことを彼等が知つてゐる筈はなし、又シムペリン王とても王子が生きてゐ
 るとは夢にも思つてはをられまい。あれらはおれの實子だとばかり思つ
 てゐる。こんなつまなげりや出入の出来ん、賤しい洞の中で育つても、御
 殿の天井にでもぶつつかるやうな大きな料簡を有つてゐて、竝の子供とは
 ちがつて、些細な、取るに足らん仕草にでも、自然と王子らしい品位が見え
 る。あのポリドーアは、王の附けられた名はギデリヤス、王に繼いでプリ
 テインの王となる筈の王子だが……争はれんものだ……おれがああ三脚
 床に掛けてゐて、昔の軍功の話をすると、躍起となつて勇み立つ。例へば、
 「敵はそこへばつたり倒れた。で、おれは其頸根子へ脚を踏みかけ……」な

ぞといふと、いかにも王子らしい氣高い顔を眞赤にして、肩を怒らし、汗を流し、おれの話す通りの姿勢なり仕草なりをする。弟のカドヲルも、元の名はアーギレーガスだが、やつぱり同じやうに意氣込んで、おれの話をおのが想像まで繼ぎ足して、活動させる。……

此時遠くて人聲、物音がする。

や、獲物を追ひ出したらしい。……おゝ、シムベリン王よ！ おれを追放なすつたのは不條理だ。天もさうおぼしめす、おれもさう思ふ。それで、三歳と二歳のあの幼兒を盗んだのだ。領地を奪られた返報に、お前さんの後繼をなくしようと思つたんだ。ユーリファイルよ、乳母であつたお前を子供らは實の母だと思へばこそ、今でも毎日慕参りをする。さうして今はモオガンと呼ばれてゐる此ベラリヤスを彼等の本當の父だとばかり思つてゐる。……

又遠くて物音、人聲がする。

狩出したな！

はひ入る。

第四場

ミルフオド・ヘーヴン(ウエールズ國の南端の港)

其附近の田舎路

ピザニオとイモーゼンとが出る。イモーゼンは騎馬服を着てゐる。

イモ

馬から降りた時に、もうちきだといつたぢやないの？ お母さまがわたしをお産みの時分だつて、こんなに待ち遠くはお思ひでなかつたらう。……ピザニオ！ これ！ ポスチューマスどのは何處に？ なぜそんな風に目

を据ゑて見詰めてゐますか？ どうしてそんなお肚から出るやうな溜息をするのですか？ これ、その顔が、只畫にかゝれたのであつても、何かこれにはいふにいはれない事情があるのだと思はれますよ。そんな怖ろしい顔をおしでない、でないと、わたし怖くなつて、氣がちがふかも知れない。え、どうしたの？ ……（此時ビザニオは無言でポストニューマスの手紙をイモーゼンに渡さうとする）。なぜそれをわたしに渡すの、そんなむづかしい顔をして？ もしそれが陽氣な、嬉しい便りなら、まづ莞爾しておくれな。けれども陰氣な、いやアな知らせなら、やつぱりそんな顔をしてゐるが、いゝ。…（手紙を受取つて）おや、夫の自筆だ！ 毒害が名代のあの伊太利！ 若しや騙されてどうかいふ災難にお逢ひになつたのぢやないか知らん！ ……これ、お前ざつと様子を話して、覺悟をさせとくれ、でないと、讀んでびつくりすると、わたし死んでしまふかも知れない。

ビザ

どうかお讀みなすつて。さうしたら、わたくしが如何に運命に見捨てられた慘な人間であるか、お解りになりませう。

イモ

（讀む）

「ビザニオよ、汝の女主人はわが寢臺に於て淫婦を演じたり。其證據顯然たる故に、わが心臓は爲に碧血を迸しらせつゝあり。こは薄弱なる推測などによりていふにあらず、其證の確實強烈なるはわが悲痛の強烈なるが如く、わが豫期する復讐の確實なるが如し。ビザニオよ、汝は：若し幸ひにして彼女の不義に傳染しをらずば、予に代りて彼女を處分せよ。汝の手にて彼女の命を奪へ。其機會をミルフオオド・ヘーヴンにて汝に與へんために、予は一書を彼女に送るべし。汝若し之を實行することを恐れ、予に確報を齎さざるに於ては、汝は彼女の破廉恥の媒介者なり、彼女と同罪の不忠者なり。」

イモーセン茫然自失して手紙を手持ったまゝ、無言で立つてゐる。

ビザ

(獨語のやうに) 劍を抜く必要はない。あの手紙でもう既にお胸を眞二つに研られなすつた! さうだ、劍よりも讒誣の鋒尖のほうがすつと鋭い。讒誣の毒はナイル河の有りつたけの毒蛇のそれにもまさる、讒誣の息はあの飛脚のやうな風に乗つて、世界の隅々まで行き渡る。王さまへでも、お妃へでも、貴顯がたへでも、處女へでも、主婦へでも、いや、墓穴の奥へまでも讒誣の毒は入り込む。……(イモーセンに) どう遊ばしました?

イモ

(半分獨語のやうに) わたしが不義を働いたつて! 不義とはどういふことなの? 夜通し寝ないで、夫の事ばかり思つてゐるのが不義なのか? 一時間毎に泣いてゐるのが? たまにうとくすれば、夫の身に怖ろしい事のおつた夢を見て、うなされて目を覺すのが? (ビザニオに) え、それが不義

ビザ

なのかい?

あゝ、お可哀さうに!

イモ

わたしが、不義をしたつて! (天を仰いで) どうぞ御裁判下さいませ。……ヤキモーよ、夫を浮氣者だとお前が悪口をしたときには、お前の顔がいかに悪黨のやうに見えたけれど、今思ふと、決してわるい人相ではなかつたのだ。……きつと伊太利の或淫婦が、紅や白粉で生れたやうな女が、夫をだましたのに相違ない。……わたしはもう流行らなくなつた陳上被です。壁際に掛けておくには些と立派過ぎるから、切りほどかなけりやならぬのだらう……八裂きにするのだらう! おゝ、男の誓言はみんな詐だ、をんなを騙すのだ! おゝ、わが夫、あなたの此不實が原因で、將來は、すべて美しい容貌は汚い事をするための假面だと思はれます。生れ附きではなく、只女を釣るための餌だと思はれます。

ビザ

(見かれて和めつと) まア、わたくしの申すことを。

イモ

(それにかまはず) イーニヤスの不信が原因で、正直な人たちのいふことさへも、あの頃には信ぜられなかつた。サイノンの空泣きは他の正しい涙にまで偽りの汚名を負はせて、ほんとに可哀さうな者たちをさへ人が憫まなくなつたとやら。ポスチューマスどの、あなたの此苦い酵母の力で、あなたの此不埒



イモ

だつて、わたし、生きちやゐられません。わたしを殺さなけりやお前は御

ビザ

が原因で、あらゆる正しい、善良な、立派な人たちまでも不實者にされます、偽誓者にされます。……(ビザニオに) さ、お前、正直者にお成り。主人の命令通りになさい。後で夫にお會ひの時に、わたしがどんなに柔順であつたかを幾らか話しとくれ。(自分で短剣を抜いて) 御覽！ 自分で剣を抜きます。さ、これでわたしの清浄な此愛情の居どこをお突き、わたしの心元を。遠慮には及びません。こゝには悲みの外には何にも入つてゐません。此間まではお前の御主人が此胸の寶物であつたのだが、もう今は入つてゐない。いひつけ通りにおし。さ、お突き。……正しい事なら勇氣があるのだらうに、臆病になつたの、お前？

(それを排斥しつゝ) え、そんな、見るさへも汚はしいものを！ とんでもないことをおつしやいます！

主人へ不忠ですぞ。自殺は神さまがお禁じだと思ふと、かよわい女の手では尙出来ない。……さ、こゝがわたしの心です。……おや、何やらある。ちよつとお待ち！ 何にも邪魔物のないやうにしよう。鞆も同様にしよう。……何だらう？ (胸元から夫の手紙を引出して) おゝ、こりやリオネータスどの、お文さま、もう今では邪宗門の書附けも同様！ えゝ、そつちへ往け、わたしの信仰を毀したやつめ！ もう此胸飾りにはしておかない。あゝ、世間の愚人共が似而非教師を信ずるのも、これと同じ道理なのであらう。だが、騙された者の苦みより騙した者のみじめさが思ひやられる。ボスチューマスどの、わたしに勧めて父に叛かせて、同等の王族からの申し込みを擯けさせなされたあなた、きつと今に、わたしのあの舉動は決してありふれた、並大抵の決心ではなかつたことが解りませう。今貪つて食べておいでの其肉に、やがて壓ひておしまひの時が來たら、わたしの事が思ひ

出されて、きつとお苦みなさるだらう、それを察するとお氣の毒だ。……(ピザニアに) さ、早く。仔羊が屠者に頼んでゐる。庖刀はどこにあります？ わたしからも頼んでゐるのに、なぜ御主人のいひつけを早くしないの？ おゝ、奥さま、わたくしは此御用を仰せつかつてからといふものは、まんじりともいたしません。

イモ 早くおし、さうしてお寢。

ピザ その前に、此目が、眠ないために、つぶれたはうがようございます。

イモ ちや、なぜやりかけました？ 何のためにわたしを騙して連れ出しました、こんな遠いところまで？ わたしもお前も骨を折つて？ 馬をも疲れさせて？ 時機は十分熟してゐたのに？ 何の爲にわたしを連れ出して……わたしは、もう決して歸らうとは思つてゐない……宮中を騒がしました？ こゝまで事を運んでおきながら、なぜ弓を引き絞りませぬ、覘つた鹿がす

ぐ前にゐるぢやないの？

ビザ 只もうさうして時刻を延ばして其間に厭アな御用をうツちやる工夫を考へましたのでございます。どうぞまアそれを一通りお聞きなすつて。

イモ 舌がくたびれるまでもおいひ。さ。わたしは、今、淫婦だといはれたので、此耳がアんとなつて、もう此上は、どんなことを聴いても恐れな程の、深い、探り針も達かない大きな傷を受けました。おいひ。

ビザ わたくしは、こりやアもうあなた様はお歸りにならんことゝ考へました。

イモ さうだらうとも。殺すために連れ出したんだもの。

ビザ いゝえ、さういふ意味ぢやございません。若しわたくしが正直者であります通りに伶俐者でもありません。只今考へてをりますことが、或はお役に立たうかと存じます。……旦那さまはお騙されなすつたに相違ございません。何でもよつぽど老練な悪い奴がゐて、あなた方に仇をしたので

ございます。

イモ

羅馬のある娼妓だらう。

ビザ

いゝえ、決してさうぢやございません。……わたくしは、もうあなたはお亡りになつたと申して、何か血の附いた物をお送りすることにします。さうしろといふお吩咐なんです。あなたが御殿にお見えになりませんとなれば、それが十分事實だと思はれませう。

イモ

だつて、其間わたしはどうしてゐるの？ どこにゐるの？ どうして暮すの？ 何を樂みに生きてをられます、夫の心には死んでしまつたわたし？

ビザ

でも若し御殿へお歸りになりますれば……

イモ

もう御殿もない、お父さまもない。もうあのクローテンなんぞの事で假にも氣を揉むのはいや。あの野卑な、おろかな、ろくでなし、あんな奴に結婚を強ひられてゐたのは、敵に圍まれてゐたよりもおそろしかつた。

ビザ

御殿へお歸りでないとすると、此ブリテインにはお住居が出来ません。

イモ

ぢや、どこに住むの？ 太陽は此ブリテインばかりを照すのかい？ 晝や

夜は、此國以外にはないのかい？ 此ブリテインは大世界といふ一卷のほ

んの添へ物のやうに見えてゐて、其中へは入つてゐません。いはゞ、大き

な池の中の白鳥も同然です。ねえ、ブリテインの外にだつて、人が棲んで

ゐるだらう。

ビザ

外國へいらつしやるおぼしめしがあれば、結構千萬でございます。羅馬

の使節のルーシヤスどのが明日ミルフオオド・ヘーヴンまで参られます。

で、若しあなたが……かう御運が薄暗くなりました以上、御本體をお見せ

になればお身の上であるは知れたことですから……お心もお姿も人に悟

られぬやう薄暗くなさるのが、殊に將來を御觀察をなさるに御便宜でござ

いませう。事によると、ポスチューマスさまの御住宅近くへ……たとへ御

イモ

様子は見えませすとも、お噂だけは毎日聞けるかも知れません。

お、さういふことが出来たら！ たとひ女のたしなみには背かうとも、

道に背く程でなけりや、どんな冒険でもわたしはします。

ビザ

では、申しあげますが、まづ、女だといふことをお忘れなさらねばなりませ

ん。先づ、柔順を權柄に、また、遠慮や斟酌を……婦人がた一般のお附役

といふよりも寧ろ可愛らしい御婦人がた其者ともいふべき怖々したお心

持を、粗暴な勇氣にお易へなさいまし。わる口も達者なら警句も達者、生

意氣で、無作法で、黽のやうに喧嘩ツ早く、それから其あてやかなお顔をば

お忘れなすつて……あ、何て酷い心だらう！ けれども爲方がない！

……また、天神妃さんさへ嫉妬んだお手数のかゝつた綺麗なお衣裳をもお忘

れなすつて、其お顔を、あのどんな汚い物をも嘗廻す太陽めにお任せなさ

らにやなりません。

イモ ま、早く後をおいひ。お前の心は解つた。もうわたしは男の氣になつてゐます。

ピザ 先づ、男らしい姿にお成り遊ばせ。かういふ考へがありましたから、豫め靴の中へ頃合の下着や帽子や細袴、その外、それに相應した物を納れて來ました。で、あなたがそれをお使ひになつて、さうして似つこらしい年頃の若い男の眞似をなすつて、あのルーシヤスどのに御面會の上、奉公をお望みなさるのです、一等お得意の藝をお申し立になるのです。……若しあの方に音樂の耳がありや……きつと喜んであなたを抱へます、お立派な、お慈悲深い方でございますから。お旅の御入用は、わたくしが十分持つてをりますから、當分も、其後もお間に合せます。

イモ わたしはお前を神さまが下さるお恵みの全部だとも思ひます。さ、出かけませう。まだいろ／＼考へなけりやならない。場合が許す限り、上手に

事を運びませう。わたしは勇敢な王子になつた積りで此事に當ります。さ、出かけませう。

ピザ ですが、奥さま、わたくしは一寸暇乞ひをして來なくちやなりません、一應顔を見せませんと、あなたを御殿から誘ひ出したのはわたくしだと勘附かれませうから。お姫さま、こゝに小箱がございます。これはお妃さまから戴きましたのですが、貴いお薬ださうでございます。若し船にお酔ひになつたり陸でお肚が痛んだりした時分に、これを少しめしあがつたらお治りなさいませう。……どこか物蔭で男姿におなり遊ばせ。どうぞ神さまがいつ鹽梅にお導き下さいますやうに！

イモ アーメン！……ありがたうよ。

双方へ別れて入る。

第五場 王宮の一室

シムペリン、妃、クローテン、羅馬の使節ルーシヤス、貴族ら、従者ら出る。

シム 申すことはこれだけ。では、御機嫌よう！

ルー ありがたう存じます。帝から勅書が参りましたので、すぐさま出發いた

さねばなりません。くれぐれもあなたを主君の敵と呼ばねばならんのを遺憾に存じます。

シム 臣下の者共が到底帝の從隸たることを甘んじません。随つて、自分が彼

等以下の態度を取つては、國王たるの尊嚴を失ふ道理なので。

ルー ごもつとも、どうかミルフオオド・ヘーヴンまでの陸上警護をお命じ下さ

りたい。お妃、御機嫌よろしう！

妃 あなたにも！

シム (貴族らに) 貴族たち、警護はあなた、ちの役目だ、決して粗略のないやうに。……では、ルーシヤスどの、御無事で。

ルー (クローテンに) お手を。

クロ (握手しつゝ) 友として此手をお受け下さい。だが、將來は、これが敵として働きますぞ。

ルー しかしどちらが勝つかはまだ分りません。さやうなら。

シム 貴族たち、セヴァン河を渡つてしまはれるまでは、お伴をなさい。……どうかめでたく！

ルーシヤスと貴族ら入る。

妃 (王に) 怖い顔をして歸つて行きました。けれども開戦の理由をいひ聞か

せたのは名譽でした。

結構でした。勇敢な國民どもの望みが叶つたといふものです。

クロ

ルーシヤスは事情を既に帝へ通信した筈だ。だから、戦車も、騎兵も、もう十分準備しておかねばならん。彼れはゴリーリヤにある兵どもを召集して、直ちに我國へ向けて進軍するであらうから。

シム

ぐづツかしてゐる場合ぢやありません、迅速に且つ堅固に事をお運ばせにやらねばなりません。

紀

シム

かうなるだらうと豫期してゐたから、手配りはとうに出来てゐる。それはさうと、姫はどうしました？ あの使節に面會しようともせず、またわれわれに對する其日の挨拶をしようともせなんだ。彼女は親に對して孝心よりも寧ろ悪意を持つてゐるやうに思はれる。どうもさういふ風に見える。……彼女をこゝへお呼びなさい。うツちやつておいたのが此方の

脱落だつたと思ふから。

一 従者 入る。

紀

御前、ボスチューマスが御追放になつてからは、彼兒は引籠つてばかりゐます。月日が経たん以上、どうも致し方がありません。どうぞ、あんまり手強いことをおつしやりませんやうに。あゝいふ弱い生れ附きですから、叱られるのが折檻に當り、さうして折檻は彼兒の一命に係はりますから。

一 従者 又出る。

シム

彼女はどこにゐる？ 親への無禮を何と辯解した？

従者

申し上げます、お居間には悉く錠がおりてをります。如何やうに大聲でお呼びしましても、更に御返辭がございません。

紀

御前、先達て彼兒を見舞ひました折、何分にも心地がわるうて、日々の御機

嫌伺ひも出来かねます、どうか暫くの間引籠らせていたゞきたいと、くれぐれも頼みまして、なほ御前へよろしくお執成してくれと申しましたのを、使節との應待其他のために、つい忘れてをりましたのは、わたくしの罪でございます。

シム (獨語のやうに) 部屋の扉に錠がおりてゐて、そして最近には、だれも彼女に會はない? 天よ、どうか杞憂が脱れますやうに!

はひ入る。

妃 碎、それ、王に従いて。

クロ 妃の家來の、あの古くからゐるビザニオめも、此二日ばかりはゐませんよ。往つて、さがして御覽。

はひ入る。

(獨語的に) ポスチューマスに忠義を盡すあのビザニオ! 毒薬をくれておい

だが、あいつがゐないのは……妙薬だと信じてゐるのだから……あれを服んだが爲であればいゝが。だが、彼女めはどこへいつたらう? 事によると、自殺する氣になつたのかも知れん。或は烈しい戀で翼が生えて、戀ひ焦れるポスチューマスのところへ高飛びをしたのかも知れん。死んだのか、でなけりや墮落したのだ。どちらにしても都合がいゝ。彼女がゐなくなれば、此ブリテインの王冠の置き場所は定つてゐる。

で出る。

碎、どうでしたえ?

クロ 妃は駈落ちしました。早くあつちへいつて、王をお慰めなさいよ。王はまるで氣ちがひのやうだ。だれも傍へ往き得ない。

妃 (傍白) けつこう!……王のためには、今夜が名残でございますやう! 入る。

クロ

(獨語的に) 彼女は可愛くもあれば憎くもある。美しくツツて、氣高くツツて、どの貴女よりも、どの女よりも上品で、みんなの佳いところばかりで作り上げられてゐて、だれよりも優つてゐるんだから、可愛いんだ。けれどもおれを輕蔑しやがつて、あの下等なボスチューマスの奴を最員にして、折角の長所をめちやくくにするやうな馬鹿くさいことをしやがるから、憎まないわけにはいかない。うんにや、どうしても此仕返しをしてくれなくツちやならん。なぜツて、およそどんな馬鹿者だつて……

かういひかけた途端にピザニオが出る。

だれだ? …おや、駈落をするのか汝は? …こら、こゝへ來いよ。あゝ、滅法界もない慶菴野郎め! やい、汝の女主人は何處にゐる? 早くいへ。いはんと、すぐ汝を地獄へ引渡してしまふぞ。

ピザ

おゝ、わかとのさま!

クロ

女主人はどこにゐる? 或は、…おゝ、ジュビター! …二度とは問ねんぞ。隠すなら隠せ、其心から秘密を引摺り出してくれる、でなきや、それを捜すために、其心を切裂いてくれる。彼女はボスチューマスのとこへ往つたのか? 卑劣な根性の何百ポンドの中に、美德てのは、たゞの一ドラムもないあの野郎のとこへ?

ピザ

あゝ、もうし、どうしてそんなことが出來ませう? いつ、まア、お姫さまがいらつしやらなくなつたのでございます? ボスチューマスさまは羅馬においでです。

クロ

え、姫はどこにゐる? もつとこつちへ來い。くづツかするな。彼女は

ピザ

おゝ、御前さま、御前さま!

クロ

おゝ、奴さま、奴さま! さ、まッすぐに白狀しろ、もう一度訊いたら、女主人

人が何處にゐるかを。もう「御前さま」は止めろ。さ、いへ。黙つてると、死刑だぞ。

ビザ　ちや、これを。(一通の書状を出して) この手紙の外には、お逃げになつた事に就いて、どういふ心當りもございません。

手紙を渡す。これはビザニオが豫め準備して来た偽手紙である。

クロ　見せろ。オーガスタスの王宮へだつて追つかけて行つてくれる。

手紙の封を切つて讀みかける。

ビザ　(傍) かうするか、殺されるかだ。……もう十分遠くへいらしたらうから、あいつがあの手紙を讀んでお行方を知つても、たゞ旅へ出るばかりで奥様のお體に危険はあるまい。

クロ　(讀みつゝ) ふむ!

ビザ　(傍白) 殿さまへは、もう奥さまを殺しつちまつたとお知らせしよう。……お、イモーゼンさま、どうぞ御無事でお旅をなすつて、御無事でお歸りなさいますやうに!

クロ　やい、此手紙に書いてあることは眞か?

ビザ　眞だと存じます。

クロ　こりやボスチューマスの手だ。おぼえがある。やい、汝が若し悪黨でなく、おれに忠義を盡す積りなら、今おれがいひつける用事を一生懸命でやれ。それがどんなわるい事であつても、まつすぐに、忠實にそれを實行すれば、おれは、汝を正直者だと思ふから、汝に金も存分にくれてやるし、立身がしなれば、口を利いてもやる。

ビザ　へい、なるほど。

クロ　おれに奉公するか? 汝はあの無けなしの乞食野郎のボスチューマスにさ

へじつと辛抱しんぼうしてくつついてゐたやつだから、恩おんを感じたかんとなりや、おれにも忠義ちゅうぎを盡つくすにちがひない。どうだ、奉公ほうこうするか？

御奉公ごほうこういたします。

ク ロ 手を借かせ。…そら、財布さいふをやる。汝きさまは先せんの主人しゆしんの上著うはぎを何か持もつて

か？

宿やどにはございます。お姫ひめさまの奥おくさまに別わかれられました時分じぶんに著きてを

ビザ されたのがございます。

ク ロ 奉公ほうこうはじめにそれをこゝへ持もつて来こい。それを初奉公はつほうこうにしろ。さ。

ビザ かしこまりました。

ビザニオ入はいる。

ク ロ ミルフオオド・ヘーヴンで會あつてくれるぞ。…あ、一ひとつ訊きくことを忘わすれた。

今いまに思おもひ出だすだらう。ポスチューマスめ、うぬ、あそこでぶち殺ころしてくれ

るぞ。その上著うはぎてのを早はやく持もつてくれはいゝに。彼女おれがいつかいやアが
つた：…今いまでも悔くやしくつてたまらない：…ポスチューマスの上著うはぎ一枚まいのは
うが此立派このりっぱなおれの體からだに身み分ぶんや位くら爵わくが附よ屬ぞくしてゐるよりも貴たつといいやアが
つた。だから、やつの著物ものを被きてゐて彼女おれを犯をしてくれる。先まづ、奴やつを彼
女おれの目めの前まへで殺ころして、おれの勇猛ゆうまうを彼女おれに見みせつけてやる。さうすりや
おれを輕蔑けいべつしてゐた彼女おれが苦くるまア。ぶつたふれてゐる奴やつの死骸しがいにさんざ
んツばら毒口どくぐちを浴あびせて、それから思おもふさま彼女おれを弄なぐさんで：…今いまいつた通とほり
彼女おれを苦くるませるために、あの讚ほめやがつた著物ものを著きて、やらかして：…そ
れから撲なぐつたり蹴け附つけたりして此宮中このきうちゅうへ追おひこくつて連つれて歸かへるんだ。
面おも白しろがつて輕蔑けいべつしやがつたんだから、こつちも面おも白しろ半はん分ぶんに仕返しかへをしてくれ
る。…

ビザニオが被服きふくを持もつて出でる。

上被てのはそれか？

へい、さやうでございます。

彼女がミルフオオド・ヘーヴンへ出かけてから、もう餘ッ程か？

まだお著きにならんくらゐでせう。

其上被をおれの部屋へ持つて来い。これが二番目のいひつけだぞ。三番

目はだ、此たくらみを獨りで吞込んでゐて、だれにもいふな。よく忠實に

守れ。すると、今に立身出世が出来る。……さ、これからミルフオオドで仕

返した。あゝ、そのために翼がほしいなア！ ……いゝか、忠義をしろ。

クローナン入る。

ビザ

いひつけ通りにすりやおれの損だ。お前に忠義を盡しやア、あの眞實な

御主人様へ不忠者になる。そんなことは眞平だ。……ミルフオオドへ往つ

たつて、お前の追ッかける奥さまはわやしないよ。天のお恵みが奥さま

のお身の上に雨のやうに降りますやう！ あの阿呆めは幾ら急いでも扱

らないで、どうぞ骨折損の草臥まうけになりますやう！

入る。

第六場

ウェールズ ベラリヤスの窟の前

イモーセンが旅姿の美少年に假装して出る。時刻は大分前

の場よりも逆戻りになる。イモーセンはこれからミルフオオド・

ヘーヴンへ往かうとしてゐるのである。

イモ

男の生活はおつくうなものだ。草臥ツちまつた。二晩もつゞけて野宿を

した。覺悟をすればだけれど、さうでなかつたら病氣になるわ。……ミ

ルフオオドよ、山の上からピザニオが汝を指さして教へてくれた時には、すぐそこに見えてゐたツけが、……おゝジョーヴ！ 動かぬ筈の土臺石までが不幸者を忌避するのにか？ 救貧院といへば、慈善のためのものぢやアないか？ 二人の乞食が間違ひツこのない路だといつたのに。あゝ、難儀を御罰とも試鍊とも知つてゐる筈の貧窮人までが嘘を吐くのか？ いゝえ、不思議はない、富人ですら眞の事をいふことは尠い。富んでゐて嘘をいふのは、貧乏で嘘をいふのよりも酷いことだ。虚偽は乞食よりも王の場合に罪が深い。あゝ、わが夫よ！ あなたが其嘘吐きの随一です。かうしてあなたの事を思つてゐると、ひもじいのをも忘れてしまつた。けれどもつい先刻は、たべたくつて倒れさうだつた。……(窟に目をつけて)おや、こりや何だらう？ こゝに入る路がある。きつと野蠻人の住家だ。立寄らないはうがいゝだらう、怖いから。でも、人は飢え死をしさうになると、勇氣

が出る。豊満や平和は怯懦を養ひ、艱難は常に敢爲を生む。……(窟に立寄つて)

おうい！ だれかゐますか？ 禮法を知つてゐる者なら、返辭をしろ。何



にも知らん野蠻なら、取るなり、貸すなりしてくれ。……おうい！……(考へて)返辭しない？……ぢや、入つて行かう。……劍を抜いたはうがいゝ。あつちも此方とおんなじに劍をこはがるかも知れない。……神々さま、どうぞさういふ敵でございますやうに！

用心しつゝ、びく／＼もので、窟の中へ入る。
少したつて、ベラリヤス、ギテリヤス、アーゲレーガスがめい／＼に獵の

獲物を携へて歸つてくる。

ペラ

ポリドーアよ、けふの饗應の旦那さまはお前だ、第一等の獲物をしたんだから、カドラルとおれは料理番や下男の役をしよう。さういふ約束だつた。それ相應の報酬がなかつた時分にや、汗を流して働く者なんか今になくなつてしまふだらう。さ、さ、胃袋の具合で以て、粗い物も旨く食へる。疲れてゐると、石の上で寝ても躰がかける、が、懶惰根性が嵩じると、柔毛の枕も堅くツてたまらん。……(窟に向つて)さて、こゝに平和あれや、留守番をしてゐてくれた粗末なおれたちの家よ！

ギデ

ア

ギデ

すつかり疲れツちまつた。
働く氣は衰へつちまつたが、食ふ氣は盛んになつてゐる。
洞の中に昨日の肉があつた。あれでも咬らう、けふ殺したのを料理する間に。

二人は急いで窟の中へ入らうとする。

ペラ

(窟を覗いて見てゐたが、二人を制めて)まちな。入ツちやいかん。……残していつた物を食つてゐなかつたなら、おれは彼者を妖精かと思ふんだが！

と驚きつゝ、窟の内を見てゐる。

ギデ

お父さん、どうしたの？

ペラ

ジュビター！ きつと天人だ！ でなきや、無類無敵な人間だ！ あれを見な、まだ子供だが、まるで神さまのやうだ！

イモーゼン窟から出て来る。皆々武器に手を掛けて氣色ばむ。

イモ

(それを制して)皆さん、堪忍して下さい。こゝへ入る前に、何度も呼んだんです。無斷で食べたけれど、實はお願ひして、貰ふか買ふかしたかつたのです。ほんとにわたし、何にも盗りやしない、盗る氣はないのです、たと

ひ床にお金が撒き散らしてあつたとしても。これは食べた物の代金です。食事をすましたら、これをすぐに臺の上へ載せておいて、さうしてお禮のお祈りをして出て行く積りでした。

ギデ え、金だつて？

アー えい、金や銀なんざア、みんな泥ツくそになツちまへ！ こちとらにはそんなものア何にもならない、穢はしい神なんか信仰してゐないんだから。

イモ 怒つておいでなさるのね。これを咎にしてわたしを殺すのなら、聽いて下さい、わたしは若し食べなかつたら飢えて死んだのでした。

ペラ 一體どこへ往きなさるんだ？

イモ ミルフオオド・ヘーヴンへ。

ペラ あんたの名は？

イモ ファイテールです。伊太利へ行く筈の親類の者がミルフオオドで船へ乗込む

んです。で、そこへ行くところなんです、まるで食べないでゐたものからです、ついこんな不都合なことをしたのです。

ペラ 美少年さん、わたしたちを粗暴な人間だと思つて下さるな。又、こんなところに住んでゐるからつて、心立の善良なのを疑つて下さるな。ようおいでなすつた。もうかれこれ夜だ。出てゆきなさる前に、今のよりはましな饗應をませう。それを食つて下さりやかたじけない。… おい、子供ら、ようもてなしてあげろ。

ギデ あなたが女だといふと、僕はうんと口説いて見て、家來にでもなるんだがなア。正直、買へるものなら、其位の支拂ひはするがなア。

アー 僕はあの人の方が男だから嬉しいや。兄弟だと思つて可愛がるんだ。さうして（ギテリヤスに）君が久しぶりで餘所から歸つて来たか何かの積りで歓迎するのさ。（イモーセンに）よう来てくれたまうた！ さ、愉快にしたまへ、

イモ みんな仲よしなんだから。
 なるほど、みんな仲よしです、兄弟ならね。……(傍)若し眞實にさうであつたらなア！ 彼人達がお父様の子たちであつたらなア！ 若しさうだと、わたしの價值が減るから、あゝ、ポストューマスどの、あなたとの釣合がとれたものを！

イモーセンが過去を追憶して萎れてゐる體を見て三人は不審に思ふ。

ベラ (ギテリヤスらに) 何か心配事があるらしい。

ギデ どうかして安心させてやりたいもんだなア！

アー どうしたのか知らんが、僕で出来りやアなア！ 骨が折れようが、危険であらうが、そんなことはかまはない。

ベラ おい、子供ら！

何事かを二人に囁く。その間イモーセンは顔りに感慨に耽つてゐる。

イモ

(獨語的に) 王侯とても……此窟ぐらゐの御殿しか有つてゐないで、自分の事は自分の手で處理し、自分の良心の是認するだけを自分の才能と思ふ王侯なぞは……移り氣な民衆の空虚な追従が附屬してゐないばかりで……迎も此二人の少年ほどには貴人らしくはあるまい。神々さま、かう申しては濟みませんけれど、わたしは寧ろ男になつて、此人たちの友達になりた

ベラ

(ギテリヤスらに小聲で) うん、さうするが…… (大きな聲で) 子供ら、さ、けふの獲物の料理にかゝらう。……美少年さん、こつちへお入り。腹がへつてゐちや話のはなはな。夕飯をすましてから、お前さんの履歷ばなしを聞かう、聞かせてさしつかへないと思ひなさる限り。